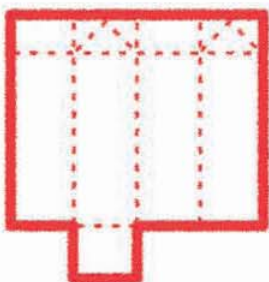
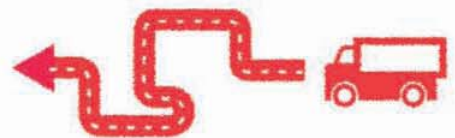


乳のちから
森永乳業
 社会・環境報告書
 2007



ごあいさつ



森永乳業株式会社は「乳の優れた力をもとに、新しい食文化を創出することで、人々の健康と豊かな社会づくりに貢献する」という経営理念のもとに事業を展開しており、21世紀に相応しい企業として、次の6つの点に力を注いでおります。

- 第一に品質・安全性の確保によって消費者の信頼に応えること、
- 第二に企業の社会的責任を果たすため、企業倫理の確立と環境や省資源への配慮、食育などの社会貢献活動を推進すること、
- 第三に国際環境の大きな変化に対して、コストダウンを推進し、差別化商品を開発し、またチーズ部門の拡充をはかること、
- 第四に海外事業と輸出の拡大をはかること、
- 第五に積極的な設備投資による事業を拡充すること、
- 第六に人財などの企業資源の有効活用および企業の新たな創設により事業を拡大することです。

具体的な取り組みとして、西日本地区の基幹工場として昨年5月より神戸工場が稼働し、同年11月から国産チーズ増産のために別工場敷地内に新製造棟の建設に着手、本年4月にはインドネシアにおける粉乳合弁会社の工場が稼働を開始しました。また今秋には東北地区の基幹工場として宮崎乳業株式会社の新工場が牛乳の生産を開始する予定です。そして今年度は経営と業務の一層の効率化をめざした新中期経営計画の初年度であり、高収益体質への転換の基盤づくりをめざしています。

当社では牛乳・乳製品、デザート、飲料、アイスクリームなど、たくさんのご家庭で消費される商品群に加え、お客様の健康増進に寄与する特定保健用食品なども手掛けており、「乳の優れた力」を引き出す新しい商品の開発に力を注いでおります。

2003年に誕生した出張スタイルの料理教室「M's Kitchen (エムズキッチン)」では、小さなお子さんから高齢者まで、さまざまな年齢層のお客様に向けて、牛乳や乳製品をいかしたメニューをご紹介します、食育の一端を担うお手伝いを続けております。

現代の経済活動において企業は、社会の一員として、経済活動と不可分の関係にある環境保全についても積極的な取り組みをおこない、資源やエネルギーの節約、廃棄物の減少と再利用、その他環境負荷を低減する等の社会的責務を全うすることが求められています。

年初に、米国前副大統領のアル・ゴア氏によるドキュメンタリー映画「不都合な真実」が公開され話題となりましたが、ここ数年、世界的な規模での異常気象が続き、「地球温暖化」が社会的に喫緊の問題として認知されてきました。気候変動に関する政府間パネル (ICPP) が第4次評価報告書を公表し、人の活動が温暖化を招いていること、2℃以内に平均気温の上昇を抑える必要があること、対策を講じれば間に合うことなども明らかになりました。

森永乳業グループでは、その社会的責務を果たすため、排水処理設備の開発と販売、コージェネレーションシステムの導入などによるエネルギーの有効利用、自然エネルギーの積極的な利活用といった環境保全活動に先進的に取り組んでいます。特に神戸工場には他の事業所で取り組んできた環境保全のノウハウを多く取り入れたことから、今後の成果が期待されます。

2006年2月に本社および研究情報センターがISO14001認証を取得したことを受け、環境経営システムの拡充をはかるため、同年11月より事業所間内部監査を開始し、森永乳業グループを統括する環境マネジメントシステムの確立を進めています。

ここに、これら社会活動と環境保全活動を取りまとめ、「社会・環境報告書 2007」を作成しました。今後とも社会に貢献し社会と共生する企業として、地道に前進してまいります。森永乳業グループへのご理解を深めていただくとともに、ご意見、ご指摘をいただければ幸いです。

2007年9月
代表取締役社長

古川 統一

森永乳業の経営理念

乳の優れた力をもとに、新しい食文化を創出することで、人々の健康と豊かな社会づくりに貢献する

経営ビジョン

- お客様にご満足いただける価値ある商品・サービスを、優れた業務プロセスのもとに提供する
- 乳業界の高収益企業をめざす
- 良識ある社会の一員として社会的責任を果たす
- 森永乳業グループの独自能力を築きあげる

企業スローガン

おいしいをデザインする

本報告にあたっての基本的要件

報告の対象	森永乳業(株)の18工場 市乳・乳製品・アイスクリームなどの製造を委託している関係会社の21工場
報告の期間	2006年4月から2007年3月まで (一部、2007年度の活動も報告しております)
前報発行日	2006年9月(ホームページに掲載しております)
報告の対象	社会への貢献活動、消費者志向活動、 製品設計、原料資材の選定および調達、 工場の生産活動にともなう環境保全活動 輸送に関わる環境保全活動
発行責任者	専務取締役 専務執行役員 生産本部長 宮原 道夫
作成部署	森永乳業(株)生産本部 生産部 環境対策室
本報告書内容に関するご意見やご質問等の連絡先	森永乳業(株)生産本部 生産部 環境対策室 〒108-8384 東京都港区芝 5-33-1 TEL 03-3798-0960 FAX 03-3798-0103 ホームページアドレス http://www.morinagamilk.co.jp

編集方針

本報告書はお料理教室、工場見学、地域ボランティア活動など、社会活動の実績を掲載しています。また、森永乳業の環境問題に対する取り組みについて、基本的な方針と2006年度の実績、今後の計画を掲載しました。報告内容については、環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考に作成しました。

森永乳業 社会・環境報告書 2007 contents



- 02 ごあいさつ
- 03 目次 経営理念と経営ビジョン
本報告にあたっての基本的要件 編集方針
- 04 森永乳業の概要
- 06 商品ラインナップと研究開発
- 08 コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

10 信頼関係を築く

ステークホルダーと森永乳業



- 12 お客様との信頼関係～安全・安心と満足のために
- 14 ビジネスパートナー、社員との信頼関係
- 16 次世代支援
- 18 社会活動

20 森永乳業が大切にしていること 社員ダイアログ

24 地球にやさしい企業として

環境保全活動と森永乳業



- 26 環境マネジメント体制
- 28 エネルギー使用状況 水質保全のための取り組み
- 30 省エネルギーへの取り組み
- 32 環境負荷低減への取り組み
- 34 ゼロエミッションへの取り組み
- 36 容器包装への取り組み
- 38 環境会計
- 39 環境報告ガイドラインとの対応

Topics

- 14 01 クールビズ、ウォームビズ
- 17 02 3-A-Day と森永乳業
- 27 03 グリーン購入
- 32 04 紙バック回収運動
- 33 05 紙バックハルブを再資源化したエコランチとテーブル
- 35 06 ホームページにアクセス!

森永乳業の概要

森永乳業グループは、「乳の優れた力をもとに新しい食文化を創出し、人々の健康と豊かな社会づくりに貢献する」を経営理念とし、この実現のため、当社ブランドに対する信用のさらなる向上をめざし、お客さま志向の徹底と品質第一主義、成長事業への重点投資、基盤事業での収益力確保、グループ経営の強化を基本方針とし、一層の事業拡大をはかってまいります。

森永乳業の事業について

森永乳業株式会社は牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料、その他の食品を製造、販売する食品企業として「安全で、安心な、よりよい商品をお客さまにお届けすること」を使命に、「乳」を中心に、おいしさや楽しさ、人々の健康をサポートする栄養や機能をお届けできるよう、研究開発や技術の向上、品質管理の徹底に日々努めています。

森永乳業の「おいしいをデザインする」というフレーズは、「食」だけでなく、生活のすべてを通じておいしさ、楽しさ、健康を創造していくお手伝いをしたいという願いを込めたスローガンです。これからも研究開発、生産、販売の各部門が

一体となって、これまで培ってきた企業文化である「お客さま第一主義」を継承し、お客さまの健康と豊かな生活に貢献できる企業をめざしてまいります。

森永乳業グループの事業概要

森永乳業グループは、森永乳業(株)、子会社79社および関連会社12社で構成され、牛乳、乳製品、アイスクリームなどの食品の製造販売を中心に、さらに飼料、プラント設備の設計施工、その他の事業活動を展開しております。

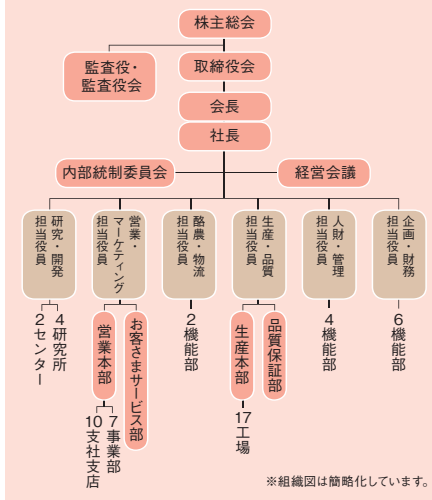
牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料などの食品事業としては、当社が製造販売する他、その一部をエムケーチーズ(株)、東洋乳業(株)、日本製乳(株)、森永北陸乳業(株)他19社に委託して製造しています。また、(株)デリーフーズ他30社は、主として当社より商品を仕入れて全国の得意先に販売しております。

また、その他の事業については森永酪農販売(株)が飼料、(株)森乳サンワールドがペットフードの仕入販売を、森永エンジニアリング(株)は食品プラント設備などの設計施工をおこない、他33社は、不動産の賃貸、運輸倉庫業などをおこなっております。

会社概要(2007年4月1日現在)

会社名	森永乳業株式会社 (MORINAGA MILK INDUSTRY CO.,LTD.)
本社所在地	〒108-8384 東京都港区芝5-33-1
代表者	代表取締役社長 古川 紘一
創業	1917年(大正6年)9月1日
設立	1949年(昭和24年)4月13日
資本金	21,704百万円(2007年3月31日現在)
従業員数	3,036名[男子2,505名、女子531名] (2007年3月31日現在)
事業内容	牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料、 その他の食品等の製造、販売
事業所	直系工場17、支社支店10、 子会社79、関係会社12

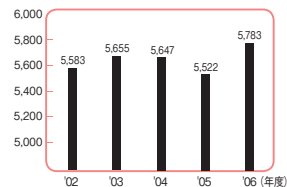
組織図(2007年6月現在)



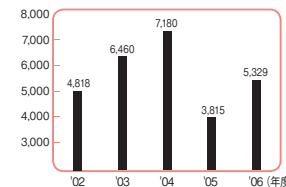
業績の推移

2006年度の連結売上高、連結純利益とも前年度より増加しました。生産量についても前年度を上回りました。

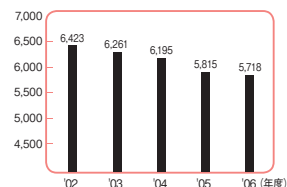
連結売上高(単位:億円)



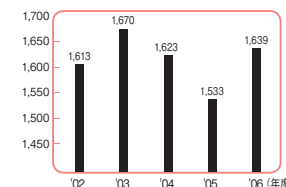
連結純利益(単位:百万円)



連結従業員数(単位:人)



生産量(単位:1000kL・トン)



営業の概況

乳業界において、生乳生産量は北海道を中心に減産計画が実施され、2006年は前年を下回りました。飲用乳の生産量は、他飲料との競合や天候不順の影響などにより牛乳、加工乳とも前年を下回りました。なお、乳飲料およびはっ酵乳の生産量は前年を上回りました。一方、乳製品需給は、業界をあげての取り組みにより、過剰傾向にあった脱脂粉乳やバター在庫削減が進みました。

このような環境の中で、森永乳業グループは、お客さまのニーズに応えた商品の開発、改良に努め、効率的な販売促進活動を展開するとともに、原材料価格の上昇を吸収すべく、ローコストオペレーションの徹底をはかってまいりました。

2007年は、新中期経営計画の初年度として「高収益体質への転換の基盤づくりの年」と位置づけ、伸ばすべき商品の売上拡大による収益力向上、差別化商品育成のための仕組み構築、ローコストオペレーションの実現などを重点課題として取り組んでまいります。

販売面では、乳飲料、ティー、ヨーグルト、チーズ、アイスクリーム、機能素材、業務用食品、流動食、宅配を売上拡大分野と定め、積極的に拡充をはかってまいります。また、生産面では、西日本地区での最新鋭の基幹工場として神戸工場が2006年5月から稼働し、現在はチルドカップ飲料、流動食、ヨーグルトを生産しております。また、国産チーズの増産のために、2006年11月より別海工場敷地内に新チーズ製造棟の

建設に着手いたしました。さらに今秋に東北地区での新しい基幹工場として宮路乳業(株)の新工場が市乳の生産を開始する予定です。研究開発面では、2006年12月に基礎研究を集中的に進めるために食品基盤研究所を新設し、食品総合研究所、栄養科学研究所は商品開発機能に特化し、商品開発をより効果的に運営できる体制として再構築いたしました。一方、生産、販売、物流、管理など各部門でローコストオペレーションの徹底をはかるとともに、お客さまに安全・安心を提供する品質保証体制の一層の強化に取り組んでまいります。

これらによりさらに当社を活力ある企業体質に変革し、「乳の優れた力をもとに新しい食文化を創出し、人々の健康と豊かな社会づくりに貢献する企業」をめざして発展していく所存です。

森永乳業グループ2006年度の概況

森永乳業グループは、お客さまのニーズに応えた商品の開発、改良に努め、効率的な販売促進活動を展開するとともに、原材料価格の上昇を吸収すべく、ローコストオペレーションの徹底をはかってまいりました。

その結果、2006年度の連結売上高は5782億5千7百万円(前年比4.7%増)となり、利益面においては、営業利益は106億2千3百万円(前年比16.4%増)、経常利益は125億3千5百万円(前年比10.9%増)、純利益は53億2千9百万円(前年比39.7%増)となりました。

森永乳業の商品ラインナップと研究開発

森永乳業では牛乳をはじめ、いろいろなジャンルの乳製品や嗜好品、栄養食品などを製造しています。

「乳の優れた力」をいかし、食文化に貢献する。そんな多彩な商品ラインナップからごく一部をご紹介します。

チルドドリンク

牛乳をはじめ、お茶、紅茶、ジュースまで幅広いラインナップでお届けしています。



森永の美味しい牛乳
「コクがあるのに、後味すっきり」牛乳にやさしい、新製法でつくった新しい牛乳のおいしさ。飲み終わったあとは紙パックをリサイクル。一部地区発売の低脂肪牛乳、無脂肪牛乳などのラインナップも。



マウントレニア
豆からこだわったカップコーヒーのバイオニア。煎れ立て感にこだわった本格派のプレミアも登場！



サンキスト
果汁にこだわったハイクラスなおいしさが好評。フレッシュ感をアップしたパッケージ。



ピクニック
人気のピクニックシリーズが持ちやすく、スタイリッシュなプリズマ容器でラインナップされました。

チルドデザート

体にうれしいヨーグルト、プリンやゼリー、生クリームなど、楽しい品揃えです。



アオイエヨーグルト
おかげさまでロングセラー。カラダのキレイをつくるヨーグルトです。



ビヒダスヨーグルト
厚生労働省許可特定保健用食品のビヒダスヨーグルトは生きたビフィズス菌(BB536)でおなかの調子を整えます。



たっぷりホイップクリーム
コーヒゼリー
香り豊かなコーヒゼリーとモカムースにホイップクリームをたっぷりトッピングしました。

アイスクリーム

多彩な商品群をご用意。好みとおいしさで選べる豊富なラインナップ。



ピノ
ひと口アイスの代名詞、愛され続けてロングセラー。

チルド乳製品

形態や味もいろいろなクラフトブランドのチーズやバターをご提供。



クラフト切れるチーズ
やわらかな口あたりと、なめらかな口付けが人気です。

食品ドライ

クリープ、練乳、スキムミルクなど食生活をバラエティ豊かにする乳製品。



クリープ
豊かなコクが、あらゆるタイプのコーヒーのおいしさを引き立てます。牛乳から生まれた成分でできたクリープ。お料理にもどうぞ。詰替え用も出ています。

育児食品・栄養食品

赤ちゃんが元気に育つように、安全・安心で育児を応援する多彩な製品。



森永ドライミルクはぐみ
栄養成分の量とバランスを母乳に近づけたミルクです。ラクトフェリン配合。ママの安心と赤ちゃんの成長を応援します。

宅配専用商品

毎日の健康の習慣をお手軽に！ご自宅まで安全・安心の商品をお届けします。宅配用のびん入り商品では軽量びんの導入を進めています。



森永カルダス
ミルクカルシウム2倍(当社牛乳比)、鉄分1mg、ビフィズス菌(BB536)20億以上の宅配専用商品です。



ラクトフェリンFe
たんぱく質「ラクトフェリン」を配合した健康食品です。

森永乳業の商品を支える研究開発活動

森永乳業ではお客さまのためのよりよい商品づくりのために研究開発にも力を注いでいます。2006年12月には研究開発部門の組織改正をおこないました。これにより、基盤研究のテーマを集約した差別化高付加価値商品の開発に欠かせない食品基盤研究所を新たに設立しました。

研究開発体制

●食品基盤研究所

ビフィズス菌のプロバイオティクス機能の解明や乳由来多機能たんぱく質ラクトフェリンなど、健康の維持増進に貢献する物質の研究、生活習慣病などの予防効果が期待できる機能成分の探索研究、最先端技術を活用し「おいしい」を極めるさまざまな基本技術の開拓などに取り組んでいます。

●食品総合研究所

おいしくて質の高い商品を開発するため、独自の技術を結集し、研究に取り組んでいます。

●栄養科学研究所

母乳の研究からはじまったドライミルクや生活の質の改善に欠かせない高栄養流動食など、乳幼児から高齢者までの人の一生における栄養の役割を追究し、商品化をおこなっています。

●装置開発研究所

食品工学の基礎研究にはじまり、生産プロセス技術、新商品のための生産技術、日々進化する先端技術の応用研究などの幅広い研究に関わっています。

●分析センター

ミネラルやビタミンなどの栄養成分組成の分析、食品衛生に関わる食中毒菌や残留農薬などの検査・分析、各工場での検査技術講習会の開催や商品の品質、安全のため努力しています。

●応用技術センター

商品をどのように調理できるかなど、そのおいしさや使いやすさの評価に取り組んでいます。

森永乳業では、研究者の高い専門性と広範囲の知識経験をいかし、お客さまに満足していただける商品づくりに全力で取り組んでいます。

森永乳業の容器包装への取り組み

森永乳業では、ユニバーサルデザインを取り入れた、お客さまの使い勝手のよさと環境に配慮した工夫を、容器包装で取り組んでいます。詳しい内容については「容器包装への取り組み」36Pにご紹介しています。

*ラクトフェリン：ヒトやウシの乳に含まれている重要な多機能たんぱく質。

コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

企業の社会性向上に取り組み、企業価値の向上をめざして、森永乳業では、コーポレート・ガバナンス体制を強化しています。

また社会のルールや法令を遵守し、コンプライアンスを森永乳業グループの全従業員が着実に実践し、企業文化・風土として定着させていくために、グループコンプライアンス体制も強化しています。

コーポレート・ガバナンスの考え方

森永乳業グループは、変化の激しい経営環境に迅速かつ的確に対応できる組織体制、経営の仕組みを構築していきます。また、経営の透明性、健全性の向上とコンプライアンスの徹底に取り組み、株主をはじめ各ステークホルダーとの円滑な関係を築き、企業価値を向上させることをめざしています。

コーポレート・ガバナンスの体制

森永乳業における会社の経営上の意思決定、執行などは、取締役会、経営会議でおこなっています。取締役会では、主にグループ全体の長期にわたる戦略的な方針を決定し、経営会議では、その方針に基づいて、日常業務を着実かつ迅速に実行できるようにしています。取締役会と経営会議のそれぞれの機能を明確にし、独立した組織とすることでコーポレート・ガバナンスの充実をはかっています。

また、森永乳業では監査役会を設置しており、法令に従い、現在4名の監査役のうち半数の2名を社外監査役としております。

内部監査は、森永乳業に監査部を設置し、当社各部門およびグループ会社の業務の適応性、妥当性および効率性について、計画的に監査活動を実施しています。

会計監査は、外部の監査法人と監査契約を結び、会計監査を受けています。

上記の内部監査、監査役監査および会計監査の3つの監査機能は、監査の信頼性、妥当性向上に向けて情報を共有化するなど、連携の強化をはかっています。

コンプライアンス委員会から内部統制委員会に

2006年5月の会社法施行を機に、「内部統制委員会」が組織されました。さらに、下部組織として、コンプライアンス部会^{*}・リスク管理部会・財務報告部会を設置しました。グループ全体がステークホルダーから信頼を得るために、内部統制の質の向上をはかれるよう、この3本柱の組織でさまざまな活動をしています。

*従来の「コンプライアンス委員会」

コンプライアンス 社会のルールや法令を遵守するために

コンプライアンスを森永乳業グループの全従業員が着実に実践し、企業文化・風土として定着させていくために、グループのコンプライアンス体制を強化しています。

具体的には運営機構として本社に「コンプライアンス部会」を設置、本社各部・全事業所および全関係会社には「コンプライアンス推進委員」、「サブ推進委員」を任命、グループ全体でコンプライアンスの徹底に取り組んでいます。

また、部会に下部組織をもうけて、表示のチェック、個人情報保護などの具体的な問題に取り組めるようにしました。

コンプライアンスに関する相談窓口は、コンプライアンス部会事務局による社内相談窓口と、弁護士による社外相談窓口の二つからなる「森乳ヘルプライン」を設置し、対応しています。

社外相談窓口には、女子社員も相談しやすいように、女性弁護士も担当しています。

これら相談員には守秘義務が課せられており、相談者の所

属、氏名などを他にもらすことはなく、また相談者が特定できるような情報開示も一切おこないません。また、相談したことにより相談者が不利な扱いを受けることはなく、安心して相談できる体制としました。

リスク管理 さまざまなリスクを想定し迅速かつ的確に

また、森永乳業グループにおいて、リスクマネジメントは重要な経営課題のひとつとして認識しています。

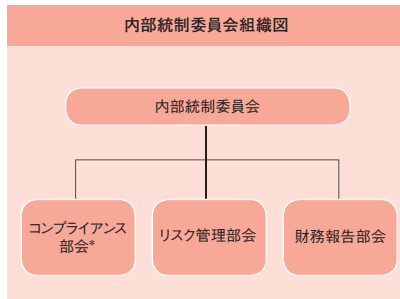
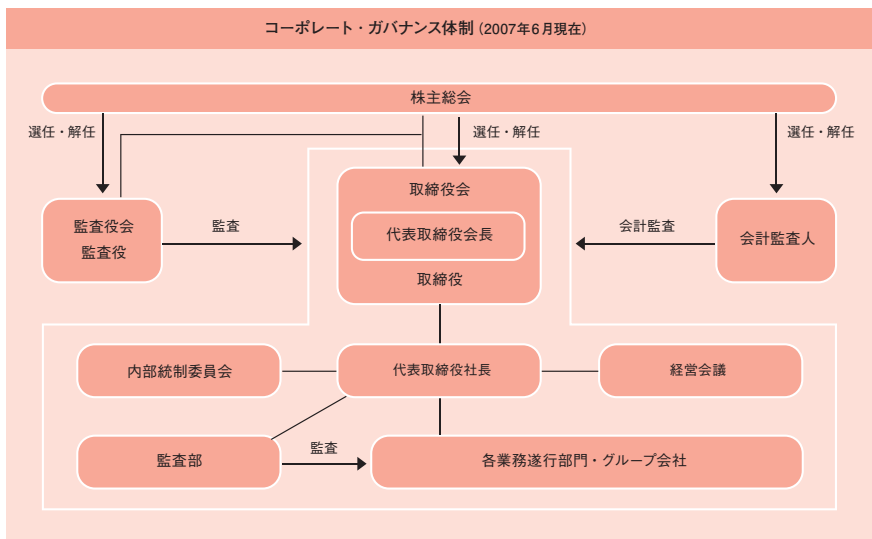
事業活動上想定されるリスクについて、洗い出しをおこない、リスクの評価および対策の実行までを一元管理する体制を構築しています。

また、経営に重大な損害をもたらすおそれのあるリスクに対しては、情報伝達のための連絡経路の確立、リスクの内容に応じた連絡体制を定め、迅速かつ的確に経営者まで情報を伝達するとともに、重要な経営課題として対策を講じることができるとともに、重要な取り組みを構築しています。

財務報告 ディスクロージャーに対する信頼性の確保に向けて

森永乳業グループの財務報告（決算数値等の開示）に関しては、従来より、グループ共通の会計処理基準の他、各々の会社において業務を遂行する上での権限、社内手続きなどについての諸規定をもうけ、周知徹底することにより財務諸表の信頼性の確保に努めてきました。

今般、証券取引法の改正にともない、財務報告に係る内部統制の評価および監査の基準が整備されました。財務報告部会では、この法律の2009年3月期からの適用開始に向けて、グループの内部統制システムの整備状況を文書化する作業を通じて、さらなる財務報告の信頼性向上に向けた取り組みを進めています。



製品にかける森永乳業の思い

森永乳業を支えるステークホルダー

取引先

製品の原材料を扱うメーカーや容器包装などの資材供給、販売を担当する事業者など、製品づくりのさまざまな工程で関わる取引先とともによりよい製品づくりのため、円滑なコミュニケーションを保持して仕事をおこなっています。

社員

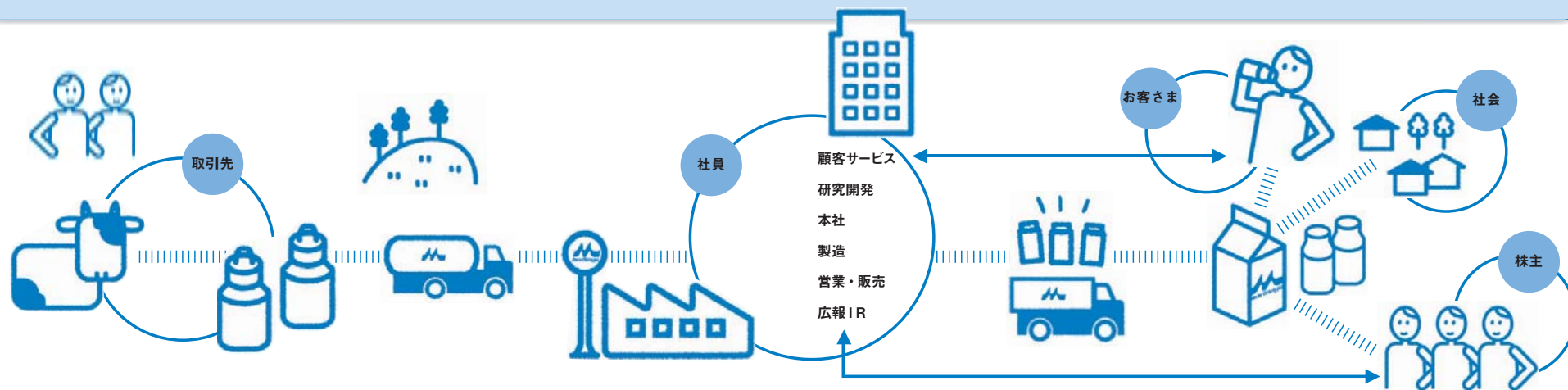
製品に関わるさまざまな部署で、社員の一人ひとりが安全、安心で確かな製品をつくりあげるために、努力を続けています。全力をあげて仕事ができるよう、働く環境づくりにも取り組んでいます。

お客さま 社会

多くのお客さまに森永乳業の商品のファンになっていただけるよう、また、よりよい商品をお届けするためにさまざまな取り組みをしています。また工場や事業所のある地域の方々とのコミュニケーションも大切にしています。

株主

森永乳業の経営に出資してくださる株主の方々よりよい関係を築くため、情報の積極的な開示や提供にも取り組んでいます。多くの機関投資家や個人の株主の方々によって、森永乳業の事業は支えられています。



安全・安心とおいしいのために

原料をつくる・集める

牧草や配合飼料（穀類）をバランスよく腹いっぱい食べた牛からしぼったおいしい生乳。酪農家によって、毎日朝晩搾乳される生乳は1日1頭25kgにもおよびます。そんな新鮮な生乳が森永乳業の製品の原料です。生乳だけに限りません。森永乳業の製品は安全・安心で高品質な原料で作られます。

輸送（原料／製品）

原料となる生乳は冷却され、ローリーで工場に運ばれます。品質を損なうことがないよう、輸送にも厳重な注意が払われます。また、新鮮さを保持するためには短時間での配送の努力も続けています。また輸送によって環境に負荷がかからないよう、さまざまな取り組みもおこなっています。

研究開発

おいさを極めるため、栄養や食品の機能を高めた高品質な製品をつくりだすために、食品総合研究所や栄養科学研究所、食品基盤研究所、分析センターなどで日々研究開発を続けています。また使いやすい、環境にもやさしい容器包装の開発や、効率よく製品を開発するための研究も続けています。

製造

森永乳業では、全社をあげて、安全・安心とおいしいを第一に製品づくりに取り組んでいます。品質保証のために独自のシステムを開発し、風味パネルマイスター制度などをもうけ、よりよい製品づくりに力を注いでいます。また製品の効率よく製造のためにも幅広い課題に取り組んでいます。

お客さまのために

お客さまの満足のために、お客さま相談室をもうけ、ご意見やご要望にお応えできる体制をつくらせて商品づくりにも反映させています。インターネットでの情報提供はもちろん、工場見学をはじめ料理教室などの企画もおこなっています。幅広く食を楽しんでいただきながら、森永乳業と商品をご理解いただけるよう努力しています。

環境のために

よりよい製品づくりだけでなく、地球環境にやさしい企業であるためにさまざまな努力を続けています。製造工程や輸送などで空気や水を汚さないように、また廃棄物などで環境に負担をかけないように、プロセスの見直しや、設備開発など、環境のために多彩な取り組みをおこなっています。

お客さまの満足のために

森永乳業では、お客さまからの声をうかがう窓口をもうけ、よせられるご意見やご相談などに耳を傾け、改善すべき点は改善し、牛乳をはじめとする多彩な商品についてご満足いただけるよう、さまざまな取り組みをおこなっています。また安全・安心でおいしい商品のために品質管理や風味、検査体制などの確立にも力を注ぎ、法律や業界の自主規制、慣行を遵守し、その基準を上回る水準の品質を確保する努力をしています。

お客さまの声を活かして…

「お客さま相談室」で年間10万件の声に対応

お客さまと直接お話しできる窓口が、森永乳業「お客さま相談室」です。お客さまの満足度向上をめざして1972年に開設されました。

「お客さま相談室」では、お客さまとの「双方向コミュニケーションの場」として、商品に関するご指摘やお問い合わせ、ご相談を全国から承っています。

フリーダイヤル、手紙、メールなどでお寄せいただいた受付件数は2006年度は約10万件に達しています。最近では、IT環境の進展にともない、情報提供の手段としてメールを使われるお客さまが増えており、メールでのご意見やお問い合わせが、受付件数の4%を超えてきました。

お客さまからご指摘をいただいたことは、すぐにお客さま

の声情報システム「ハートライン」に入力され、全社的に情報の共有や活用ができるようになっています。また、お客さまからのご相談やご意見に回答をさしあげる場合については、関連部署と即時に連絡をとり、速やかにご返答できるよう、常にお客さまの声を真摯に受け止め、迅速かつ誠実な対応をおこなうよう努めています。

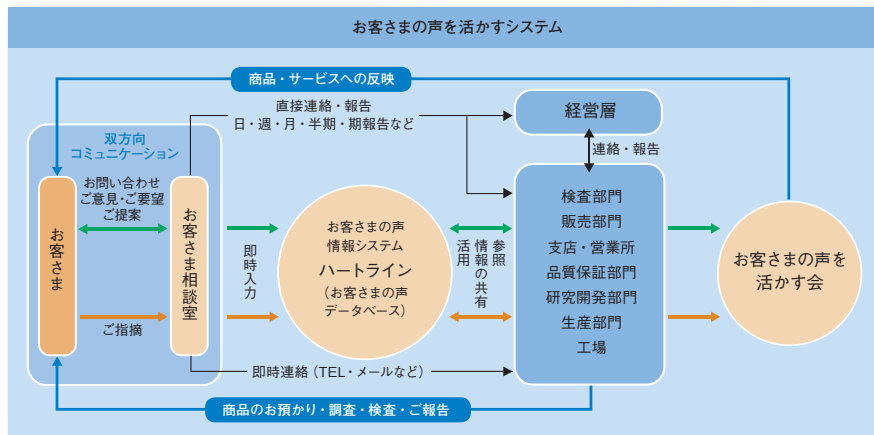
「お客さまの声を活かす会」

私たちは、「お客さまの声を貴重な経営資源として活かしていかなければお客さまに信頼される企業にはなり得ない」との考えにもとづき、お客さまから寄せられたご指摘、ご意見などすべての声を素早く全社で共有し、商品の改善・改良にいかす活動を進めています。たとえば、商品に関する「ストーリー」の取り扱いについてのご意見をいただいた事例では、容器包装や製品開発の部門と協議し、包装を改善しています。

改善例



「ストロウが取り出しにくい」という声に、取り出し方の図解説明をつけて対応。



顧客満足度調査もおこなっています

貴重なご意見をいただく機会をより一層意味のあるものにするために、森永乳業では、商品に関する「ご指摘」をいただき、対応をおこなったお客さまを対象に、1995年より「対応に関する満足度」や「商品・サービスに関するご意見」をうかがうアンケート調査を実施しています。

アンケートの内容は、「お申し出時の電話対応担当者の態度の良し悪し」「その後(訪問など)の担当者の対応の良し悪し」「調査結果の報告に納得いただけたか否か」「当該商品の今後の購入意向」などについて、それぞれ評価いただき、その結果を今後の改善につなげるよう努力しています。



さまざまな品質保証体制で品質を守る

森永乳業では、国内法、業界ガイドライン、国際法等の法律・規則の遵守を徹底し(法令遵守)、安全性と品質を最優先とし(安全第一主義)、お客さまに安全・安心な商品をお届けして健康維持・増進に貢献するとともに、おいしさ、楽しさなどお客さまに一層満足していただけるような商品を提供する(顧客志向)ため、万全の品質保証体制に取り組んでいます。森永乳業における品質保証体制は、製品の研究開発、原料調達、製造、物流、販売の各過程において、各部門が実施すべき品質管理に関する業務が規定されており、その総合力により、商品の安全性および品質を確保しています。

その過程で、いくつもの品質保証体制のツールがありますが、主なものは次のとおりです。

森永乳業の品質保証体制

検査体制(ダブルチェック体制)

- 原材料および製品について、公的な品質規格よりさらに厳しい自社規格をもうけるだけでなく、さらに、当社工場と当社分析センターの双方で検査するダブルチェック体制を取っています。
- 原材料の管理は、サプライヤー(原材料の供給者)の選定から、採用、受入・保管・使用に関わる手順・基準を設定し、その各々でダブルチェック、クロスチェックの体制を取っています。また、原材料サプライヤーに対して製造所への立ち入り検査を含む品質審査、定期的な講習会の開催など、相互協力によりともに品質レベルを上げ、信頼関係を強固にする取り組みをおこなっています。

による製造の実行および定着状況、記録、管理状態、変更届の実施状況などを監査し、HACCP(およびMACCP)システムの改善・指導などをおこない、品質事故防止、品質管理強化をはかっています。

③事業所内での内部品質監査

工場長または品質管理士が、年1回以上 MACCPの適正な運用状況などを確認し、その定着をはかっています。

品質管理士制度

工場の衛生管理、品質管理をさらに進化・発展させるために、工場内部から工場ならびに本社、研究所の問題・課題を直接本社に具申できる制度として、品質管理士制度を創設しています。

品質管理士は各職場、各職責が各々の役割を正しく認識し、正しく実行しているかどうかをチェックし、その実行状況や設備の欠陥などを把握して、問題点を工場内および社内に明らかにすることで、工場内の内部けん制、相互けん制の役割、機能を持っています。重要な取組、問題点に関しては、直接、会長および社長に連絡する権限を有しています。

品質管理士は自らの業務・役割に加えて、工場内の「品質に関する監査役」的な業務を担当します。

従業員一人ひとりがつくる品質

品質管理システムの基本は、最終的には人に帰結します。品質保証体制が適切に機能するためにも、従業員一人ひとり(個)のレベルで適正な品質管理の運用がおこなわれなければなりません。従って、人の育成が最重要課題であり、MACCPの中でも教育・研修を明確に規定しています。従業員一人ひとりが品質への自己責任、社会責任、自律、技術・知識、意識を強く持ち、品質の確保・向上に努めています。

当社独自のHACCPシステム(MACCP)

HACCP(総合衛生管理製造過程)システムは、食品の品質確保のための最も優れたシステムですが、森永乳業では HACCP に①風味、外観などの品質についての異常も危害としてとらえ、管理をおこなう。②職場全員による危害分析をおこなう。③ HACCP(総合衛生管理製造過程)承認対象品目以外の全製造品目を対象とする。④内部品質監査をおこなう。の4事項を加えて独自の品質管理システムを設定し、「MACCP」システムとして各工場毎に構築しています。

3重の品質監査体制(トリプルチェック)

①品質保証部による工場品質監査

森永乳業で扱う製品の品質確保を目的として、品質管理活動が規格、基準通り実施されているかを厳正に監査し、必要に応じて改善勧告をおこなうことにより品質事故の未然防止をはかっています。

②外部品質監査

(株)オリエテにより社外の中立の立場から、HACCP(およびMACCP)

幅広い関係先とつながって…

森永乳業は安全・安心でおいしい製品をお届けするために、原料、資材、輸送、販売など幅広い取引先と協同し、製品をつくりあげています。

酪農家とのつながり

森永乳業のグループ会社で、酪農家に飼料などの生産資材を販売している森永酪農販売(株)では、牛の健康を考えた新しい飼料の開発や飼養管理について研究を重ね、酪農家と一緒にした取り組みを展開しています。また、森永乳業と森永酪農販売は、酪農家の経営発表大会や大学の先生などを講師に招いての酪農家向け講演会を開催するなど酪農振興に取り組んでいる(財)森永酪農振興協会への活動支援をおこなっています。

多くの取引先とともに

容器包装の資材を供給するメーカーをはじめ、牛乳以外の製品の原材料メーカー、販売を担当するグループ会社や飲料会社まで幅広い取引先とともに仕事をしています。

森永乳業の安全・安心とおいしさを守るため、これらの取引先各社とは情報を共有し、またよりよいシステム構築のためのアイデアを相互にひきだすことができるよう、コミュニケーションをとりながら連携するよう取り組んでいます。

[Topics 01]

クールビズ、ウォームビズ

国民的行事としてすっかり定着した感のあるクールビズとウォームビズに、森永乳業では2005年に引き続き2006年も全社をあげて取り組みました。

クールビズは6月19日(月)～9月29日(金)、ウォームビズは12月1日(月)～3月30日(金)に実行しました。

この取り組みの期間中は、夏は28℃、冬は20℃を目安に室内温度を設定するほか、ノーネクタイ、ベスト着用など服装による温度管理、不要な電気のスイッチオフ、節水などと呼びかけて、オフィスの省エネルギーに取り組みました。

COOLBIZ

WARMBIZ

森永乳業は機関投資家をはじめ個人投資家など、幅広い株主の方々に支えられて事業をおこなっています。

投資家・株主の皆さまとともに…

情報提供によるコミュニケーション

森永乳業は、投資家の皆さまに企業情報をご提供するためにさまざまな取り組みをおこなっています。

決算の発表時には説明会を開催し、個別の取材を年間130回以上おこなうなど、機関投資家に対して情報収集の機会をもうけています。また、新商品のニュースリリースだけでなく、神戸工場の稼働や別海工場のチーズ棟の建設着手などをはじめ、会社としての中長期計画など、経営的課題の情報についても積極的に情報発信をおこない、情報の開示に努めています。

またHP上でもIR情報のサイトをもうけ、決算情報、有価証券報告書、決算説明会資料、電子公告・決算公告、株式に関するご案内、株主総会・事業報告書、株価情報、IRカレンダーなどの情報にアクセスできるようにしております。株主の方には定時株主総会終了後に「会社紹介コーナー」を開設し、当社の事業、商品の紹介をおこなっています。



株式の状況

ホームページ = http://www.morinagamiik.co.jp/ir/index.html	
発行可能株式総数	480,000,000 株
発行済株式の総数(自己株式 939,244 株をのぞく)	253,037,974 株
株主数	33,403 名

大株主(上位10名)

10.37%・森永製菓株式会社
6.26%・日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)
4.91%・株式会社みずほ銀行
4.71%・日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)
3.39%・日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)
2.88%・株式会社みずほコーポレート銀行
2.74%・株式会社三菱東京UFJ銀行
2.62%・日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)
1.82%・三菱UFJ信託銀行株式会社
1.55%・モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・リミテッド

社員が働きやすい職場環境をつくる

森永乳業の製品を支える社員たち。より快適に効率的に仕事をおこなうことができるように、その職場環境や福利厚生等の整備にも力を注いでいます。2006年度は子育て支援や仕事と生活の調和などに重点的に取り組みました。

労働安全衛生マネジメント

森永乳業は、従業員の健康と安全の確保を企業経営の最優先課題であると考えています。その基本理念のもと、労働安全衛生マネジメントシステム導入モデル事業所として中京工場が2006年4月にキックオフし、2007年9月には予備審査を受け、2008年の認定取得に向け一丸となって取り組んでいます。その他の事業所も順次取り組みを開始するなど、先取り型の安全活動の定着に向けて全社的に努力しています。また、工場の無災害日数記録も更新中であり、日々の取り組みが着実な成果をあげています。

無災害日数記録 (2007年3月31日現在)

佐呂間工場	3522日
福島工場	3867日
徳島工場	4081日
別海工場	4423日
盛岡工場	4996日
富士工場	5532日
大和工場	7026日
松本工場	7656日

2007年7月4日に別海工場が安全衛生表彰北海道労働局長賞(優良賞)を受賞。



ワークライフバランスの推進

社員それぞれが互いの価値観を認め合い、個々の能力を十分に発揮できるように、森永乳業では福利厚生制度の拡充や社員の意識変革に努めています。

「子育て」への支援

育児支援制度では育児休職制度の他、2007年5月には妊娠中～小学校4年生の4月末日まで利用できる短時間勤務制度などを導入し、子育てしながらの勤務をサポートする諸制度の整備を進めています。また、2006年に設置した社内向けイントラサイト「子育てサポートナビ」では、両立支援制度の周知と社員の情報交換の場を提供しています。



仕事と生活の調和

森永乳業では、本社、全10支店他各事業所でノー残業デーを実施するなど、労働時間の管理に取り組んでいます。本社では、月2回のノー残業デーを電子文書で告知するとともに、館内放送で呼びかけるなど、ノー残業デーの周知をはかっています。

2007年5月からは年次有給休暇の計画取得制度「マイ・ホリデー制度」を導入し、年次有給休暇を計画的に取得することを促進しています。また、勤続20年、30年の社員には連続休暇と支援金を付与するなど、リフレッシュして新たな気持ちで仕事に取り組めるよう、社員の仕事と生活の調和を支援しています。

社員の健康管理に関する活動

社員一人ひとりの健康の増進のため、各自が生活の中に取り入れ、取り組んでいける多彩な企画をおこなっています。

ファイブミリオンクラブ

1995年に発会し、毎年10月から年間500万歩以上のウォーキングをめざして健康増進に取り組んでいます。年間500万歩以上歩いた社員には会員認定証と賞品を贈呈し、1日1万歩以上(年間365万歩以上)歩いた社員にも賞品を贈呈することで、健康づくり運動を社内に広げています。2006年度も62名が500万歩を、42名が365万歩を達成しました。

健康フォーラム

本社近隣の事業所では、森永乳業、森永製菓共催、森永健康保険組合後援にて年2回、健康フォーラムを開催し、社員の健康意識を高める働きかけをしています。生活習慣病など、身近なテーマでおこなわれるこのフォーラムは、社員の関心も高く毎回約100名が参加し、熱心に耳を傾けています。

2006年9月	「認知症の予防も生活習慣から…最近もの忘れが気になりませんか?」
2007年2月	「生活習慣とメタボリックシンドローム…血管の老化を防ぐために」



次世代の育成のために…

森永乳業では私たちの未来を担う次世代の子どもたちのための活動にも取り組んでいます。特に「人々の健康と豊かな社会づくりに貢献する」企業として、「食」について楽しく学ぶ料理教室の開催などを社会貢献活動と位置づけ活動しています。

森永乳業の食育活動の取り組み エムズキッチン

この数年、人々が健全な食生活を実践できることを目的とした「食育」への関心が高まっています。森永乳業では、以前より、「人々の健康と豊かな社会づくりに貢献する」企業として、仲間や家族と一緒に料理をつくり、「食」について楽しく学んでいただく料理教室を社会貢献活動と位置づけ活動してまいりました。

2003年に、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層を対象に、牛乳・乳製品をいかにしたメニューを紹介する料理教室を「エムズキッチン (M's Kitchen)」との総称でリニューアルし、全国規模で展開しています。

エムズキッチンは、講師を無料派遣する出張スタイルの料理教室で、「食をたのしく！」をキャッチフレーズとして主婦をはじめ多くの方が参加されています。参加者からは、「もっと美味しく・もっと楽しく・もっと素敵に」をテーマにしたシンプルで新しい発見があるレシピが好評で、コミュニケーションの場としても貴重との評価をいただいています。



シンプルに楽しいお菓子づくりも!

元気の源に! 「シニアキッチン」

エムズキッチンは対象もさまざまに、いろいろなプログラムを開催しています。

中でもユニークなのは、60歳以上の高齢者を対象とした「シニアキッチン」で、90歳を超える方の参加もありました。

これは寝たきり予防のために作業療法を取り入れたデイケアサービスとタイアップした事業です。シニアキッチンは、高齢者に乳製品の簡単な食べ方やおいしさを知っていただくことで、食生活の改善による健康な体づくりに貢献し、ひいては寝たきり予防につながると考えています。

料理づくりの楽しさを伝えたい

子ども向けには、小学校に出張授業するキッズ向けエムズキッチン「幸福(しあわせ)食事館」を実施しています。親子料理教室を開催し、子どもはもちろんのこと、調理が苦手なお父さん、お母さんにも、料理づくりの楽しさを知っていただいています。

幸福食事館の体験により、子どもたちの給食や朝食への関心が高まったと高い評価をいただいでおり、保護者も参加できる教室にしたことで、食育活動としてより意義深いものになっていると支持をいただき急速に規模が拡大しています。



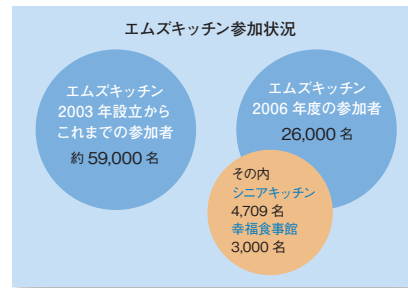
エムズキッチンでは、小学校での出張授業をおこなうキッズ向けの他、60歳以上の高齢者を対象にしたシニアキッチンもおこない、幅広い年齢層を対象に豊かな食体験のために活動しています。

これからも、もっと楽しく!

若い世代を対象にしたエムズキッチンの増加とともに、シニアキッチンや幸福食事館もさらに充実をはかっています。

シニアキッチンは、安全で簡単に料理づくりが可能な電磁調理器を使った教室に重点を置いて展開します。

幸福食事館では、食育をテーマとした人形劇のビデオを観た後、物語に登場する王様とお姫様に扮したスタッフと一緒に調理を体験学習するなど、子どもたちがさらに楽しく学習できる、充実したものにしてい取り組みをはじめています。



海や山で思い切り遊ぶとともに料理や水運び、かまどづくりなど、自分たちの「食」についても真剣に向き合います。たった6日間、子どもたちはみな驚くほどたくましくなり、いきいきと輝き出します。



【Topics 02】

3-A-Day と森永乳業

3-A-Day とはカルシウムが豊富で人の体に必要な栄養素がバランスよく含まれている乳製品を1日3回または1日3品目とって、健康な体をつくらうという食生活改善運動です。2003年にアメリカで本格的にスタートし、世界的な広がりをみせています。日本でも森永乳業だけでなく、酪農・乳業界が中心となり、協同して国民の食生活改善、健康維持増進に何らかの貢献ができるよう、活動を続けています。1日に牛乳200mL、ヨーグルト100g、チーズ20gを目安に、誰でも気軽に始められる運動です。



大きな自然の中で探そう、君だけの宝物 「リトルエンゼル育成」キャンペーン

全国から小学生隊員50名が無人島5泊6日の大冒険

「リトルエンゼル育成」キャンペーンは、森永製菓との共催で、今年で9回目を迎えました。一般公募で全国から集まった50人の探検隊員(小学3~6年生)が、家族と離れ、自然と向き合い、友達と助け合い過ごす無人島5泊6日の大冒険です。食事に使う塩だって、海水からつくります。多くの可能性を秘める子どもたちにとって無人島探検の毎日、「大きな発見」と「自己の成長」の日々です。



地域の皆さまとともに…

ときには森永乳業の工場のご紹介を通して、またときには各事業所や工場、グループ会社などがおこなう地域に根ざした社会活動などを通して、森永乳業では地域の皆さまとのコミュニケーションを大切にしています。

工場見学での取り組み

森永乳業では、お客さまに多摩サイト、中京工場、神戸工場にお越しいただき、日頃召し上がっている商品がどのようにつくられているのかを知っていただく工場見学をおこなっています。

工場見学では、衛生的な環境づくりに取り組む森永乳業の物づくりの姿勢を見て、安全で安心な製品をつくる努力を知っていただくだけでなく、見学をきっかけに森永商品を身近に感じ、森永乳業のファンになってもらえる機会となるよう配慮しています。

毎回異なったお客さまが来場されるため、臨機応変な対応ができるよう努力し、また日々変更される製品や製造機械の状況など、常に現場の情報収集をおこなって、的確な説明で生産ラインをご覧いただき、森永乳業や製品についてより理解を深めていただくよう努力しています。

工場見学は直接お客さまの声を聞ける貴重な機会でもあり、スタッフ一同丁寧な対応を心がけ来場をお待ちしています。

工場見学のご案内

●東京多摩工場→牛乳や果汁飲料、ヨーグルトなどの製造
 ●大和工場→クリープ、育児用粉ミルクなどの製造
 所在地：東京都東大和市立野 4-515
 1団体5～130名まで対応。小学生以上。
 お申し込みお問い合わせ：森永乳業（本社）お客さま相談室
 ☎0120-369-744

●中京工場→牛乳やアイスクリームなどの製造
 所在地：愛知県江南市中奈良1丁目1番地
 1団体15～90名まで対応。50名以下で体験学習も可能
 お申し込みお問い合わせ：森永乳業（東海支店）お客さま相談室
 TEL 052-936-1521

●神戸工場→乳飲料、ヨーグルト、流動食などの製造
 所在地：兵庫県神戸市灘区摩耶埠頭3番
 1団体15～100名まで対応。小学生以上。
 お申し込みお問い合わせ：森永乳業（関西支店）お客さま相談室
 TEL 06-6341-0271
 ※神戸工場での工場見学は2007年6月27日から開始されました

さまざまな取り組み

多摩サイトでは、夏休みファミリーDayや特別企画などを実施しています。

特別企画の第1回目は夏休みに「おいしい牛乳」をテーマに牛乳についての講演とアイスクリームづくり体験をおこない好評を博しました。また体験コースではこれまでのチーズづくり体験だけでなく、前述のアイスクリームづくり、紙バックを利用した紙すきなどバリエーションを増やしています。

また製造担当者の使用している制服、作業用の帽子などの実物を見てもらい、衛生的な環境づくりの取り組みについて紹介するなど、工夫をこらして見学を楽しんでいただくよう努めています。

また中京工場では、見学コースのDVDビデオの内容を一新し、製造ライン・コントロール室など4か所の見学コースのパネルも変更しました。こちらでは製造担当者の制服を陳列して紹介するなど見学者に興味を持っていただけるような試みを取り入れています。

環境にやさしい工場として…

多摩サイトでは特別企画として「多摩サイトでエコを学ぼう!」と銘打って「親子で楽しい工場見学会」を開催しました。多摩サイトの歴史やエコ活動についてスライドを交えて説明したあと、紙すきハガキづくりを体験していただきました。お客さまや公的機関からのご要望があるときは、このような身近なところから環境活動に興味を持っていただけるプログラムでの工場見学も実施しています。

工場見学者数

	学校関係	一般見学	合計
多摩サイト	11,126名	3,503名	14,629名
中京工場	9,354名	5,054名	14,408名
学校関係 = 幼稚園・保育所、小学校、中学校、高校、大学			



清掃などで地域社会に

各事業所や工場、グループ会社などがそれぞれの地域に根ざした社会活動を自主的におこなっています。その活動は多岐にわたり、環境美化をはじめ、除雪や防犯など幅広い分野におよんでいます。このボランティア活動を通して、地域の皆さまと協力しあい、ふれあう機会を大切にしています。

事業所などによる活動	
佐呂間	佐呂間町主催の幹線道路沿いのゴミ拾いに参加、西富地区の公民館大掃除に参加
別海	地域清掃活動への協力、地域年末防犯パトロールへの協力など
盛岡	環境月間に工場周辺の清掃活動を実施、場外周辺歩道の除雪
福島	工場前の濁り川清掃に協賛しジュースなどの差し入れも実施
郡山	地域活動クリーン作戦への参加、工場周辺道路、敷地境界の清掃活動
東京	工場周辺の清掃活動、近隣の緑地開放、奥戸神社の祭りに協力他
東京多摩・大和・村山	「空堀川・クリーンアップ」と川まわりの定例行事に参加他
松本	工場排水を放流している穴田川の清掃、美ヶ原高原の清掃
富士	富士山麓ブナ林創造事業（植林）、身障者雇用施設の紙バックサイクル活動へ協力参加
中京	江南市 川と海のクリーン大作戦（木曾川河川敷の清掃活動）他
徳島	工場外周の道路、排水路の清掃活動を継続、場内排水の放流先・飯尾川のゴミ清掃
北海道保証牛乳	年1回町内会主催の河川（銭函川、排水放流河川）清掃・草刈りに参加
秋田協同乳業	工場周辺バス停道路等の定期掃除他
日本製乳山形	工場外回りの草刈りおよび清掃、社会福祉施設へダンボール提供他
九州森永乳業	用水路（工場北側、南側）定期清掃実施、山口川清掃
森永北陸乳業富山	中川水路の草刈りおよび清掃を定期に実施
エムケーチーズ	高座地区河川をきれいにする会参加、廃棄物不法投棄監視パトロールに参加
富士乳業	工場周辺道路の清掃、回収牛乳パックを町の社会福祉協議会に提供他
清水乳業	三保海岸清掃活動参加
東洋乳業	徳の谷川 河川敷一斉清掃に参加、社外周回清掃
熊本乳業	鹿野瀬水利組合主催の河川清掃奉仕、工場敷地内および周辺ゴミ拾い

災害支援などで世界に

森永乳業グループでは、国内および世界各地で発生した大規模な自然災害に対して、被災した地域、政府、救援活動をおこなう団体などへ、製品・物品の寄贈や従業員による寄付などの支援活動をしています。また社員の協力のもと、災害地への義捐金を募り、寄付する支援活動もおこなっています。これまでに、ハルビン、台湾、新潟、スマトラ、パキスタンなどに義捐金を送っています。



北海道保証牛乳
年1回6月に町内会主催の河川（銭函川、排水放流河川）清掃・草刈りに参加



郡山工場
年12回おこなっている工場周辺道路、敷地境界の清掃活動



中京工場
江南市の川と海のクリーン大作戦（木曾川河川敷の清掃活動）に参加



東京工場
奥戸神社の祭りに協力



徳島工場
飯尾川のゴミ清掃



安全、安心とおいしさを追求する、社会とともにある企業であるために 森永乳業が大切にしていること

「乳の優れた力をもとに新しい食文化を創出し、人々の健康と豊かな社会づくりに貢献する」という森永乳業の理念。その実現のため一丸となって取り組んでいる社員の皆さんから、その実践についてうかがいたいと今号では初めての社員ダイアログ（座談会）を企画しました。

「ステークホルダーミーティング」社員ダイアログ出席者
開催日：2007年7月2日（月） 14:00-17:00
場 所：森永乳業本社 8階 8B会議室

広報 IR 部 栗原繁雄	食品総合研究所 容器包装開発部 中井徹生	生産部環境対策室 矢崎雅俊
総務部総務課 伊藤 充	調達部 濱邊学史	生産部環境対策室 石川茂光
お客さまサービス部 磯村奈生子	品質保証部 網田幸恵	生産部環境対策室 山本美穂子
人財部人財課 永安紀人		



社員の一人ひとりが大切にする ステークホルダーとの関係

——この1年間、ご担当のお仕事に関して、ステークホルダーは誰か、また、どう取り組んでこられたかをうかがっていきたいと思います。

栗原●広報IR部は情報発信の部署です。ステークホルダーはマスコミと機関投資家の2つに分類されます。ここ数年は、そのステークホルダーに対する情報発信、中でも経営的話題の情報発信に取り組んでいます。どうしても商品のニュースリリースなどの発信に偏りがちで、会社が何を考え、どんなことをやり、やろうとしているかの発信については、少なくなりがちです。そこで、この部分の強化を心がけました。昨年は神戸工場の稼働や別海工場の新チーズ棟建設などの情報発信もしています。

伊藤●総務部のステークホルダーは、社員の皆さんになります。総務部として、いかに過ごしやすい環境を提供するかという職場環境の整備。重ねてコンプライアンスです。会社の社規・社則をいかにメンテナンスし、法令の改正に対応していくかを考えています。



同様に大切なのが株主様です。昨年は会社法、商法が80年ぶりに改正されたことを受け、情報をきちんと把握し株主様に伝えていくことに力を注ぎました。同時に、機関投資家様はもちろん、個人株主様はお客さまでもありますから、会社のファンをつかっていくというテーマを持っています。

そして役員の方々に対しては、社員の皆さんの情報はもちろん、株主様からのご意見・ご要望などの情報をあげていくことです。昨年から株主様アンケートをとってその内容を報告するなどをしており、三様の対応をとる取り組みを続けています。

中井●研究所にはパッケージの開発などに関して、いろいろな方から多彩なご要望をいただきます。ステークホルダーにはお客さまを第一にあげました。お客さまがどんな製品やパッケージをいかに好まれているかを把握するよう常に心がけています。使いやすさや品質を高めようとすると、コストは上がります。工場の適性だけを考慮していると、メーカーにのみ都合がよく、お客さまには使い勝手の悪いものになりかねません。全体として最適なものは何かを探る取り組みが必要だと考えています。

磯村●お客さま相談室のステークホルダーは、お客さまです。お客さまからお電話などで、商品についてのご意見やご質問などをうかがい、よりよい商品づくりの参考にさせていただきます。また、工場見学などで小学生をはじめ、大勢のお客さまに直接お会いし、工場をご案内することで、いかに印象に残していただき、森永乳業のファンになっていただくかも、重要な仕事であると感じています。

現在年間の電話でのお申し出は10万件前後あります。最近は多彩な情報や事件が頻発しているため、お客さまも安全や安心を求めるお気持ちがお強いと感じます。**伊藤**●そうですね。同感です。先週終了した株主総会でも、これまでよりご質問が多かった印象を受けました。**永安**●人財部にとって主要なステークホルダーはやはり社員の皆さんです。会社も繁栄し、社員の皆さんもやりがい、働きがいをもちて楽しく働くことができます。そして、仕事も家庭も充実させ、社員と会社がウィン・ウィンの関係にある、働きやすい環境を築ければよいと考えています。

第一のステークホルダーは 幅広い意味での「お客さま」

濱邊●調達部では、資材の取引先様がいちばん重要なステークホルダーになります。調達部の具体的な課題としては容器包装の軽量化、資材輸送の効率化、原材料包装の大容量化などに取り組み、環境への配慮や廃棄物削減などを実現していくことがあげられます。そのためのアイデアが、日常の会話の中で、取引先様から自然にご提案いただけるような、取引先様との良好な関係を築く必要があります。また取引先様も大企業から中小企業までさまざまです。環境に対する認識も異なりますので、その点についても意思統一が必要だと考えています。

網田●品質保証部としても、ステークホルダーは、流通の量販店さんや個人の栄養士さんなども含めた、幅広いお客さまだと考えています。課題として、お客さまがどのくらいの情報を必要とされているかを正確に把握し、その要望にお応えするための確かな情報をいかに素早く収集し、その情報を整理、活用できるかが重要だと考えています。

石川●環境対策室でISO14001と環境保全ともなう諸案件を担当していますので、社員の皆さんがステークホルダーになります。まずは昨年ISO14001を取得した本社・研究所の取り組みについて、目標や方針などの周知徹底を課題にしています。

山本●大きくは外部の環境関連の団体、他メーカーの環境対策担当の方、そして社員の皆さんがステークホルダーになります。社員の皆さんには環境関連の活動を理解していただくこと、外部の方には森永乳業の活動をわかりやすく的確に発信するということが課題です。

矢崎●業界団体と協同、協調して取り組んでいくことが重要です。そこで第一のステークホルダーは業界団体になります。たとえば紙パックであれば、リサイクルの啓発活動を一緒にやっていくというような関係です。第二のステークホルダーは、廃棄物の削減に関する取り組みや、環境にもやさしいコスト削減への努力を続けている工場の人たちとなります。





情報の共有とコミュニケーション。 全社的な取り組みがよりよい製品づくりに

—それぞれのステークホルダーと課題をあげていただきました。それを実際に解決するための今後のアプローチについてうかがいます。

石川●各地の工場に関わっていますと、ある工場で有効な事例が、他の工場ではいかされていないという事例を散見することがあります。たとえば廃棄物の取り扱いが、地域によって異なるなどです。その齟齬をなくすための広報方法を模索中です。直系工場に限らず、関係会社も含め、是正改善すべき点およびよい取り組みに関する情報共有を可能にしていきたいと考えています。

中井●たしかに情報の共有という考え方があります。いろいろな要望がある中、関係部とうまく連携して調整し、情報を共有しながら仕事を進めることが課題です。たとえばお客さまサービス部やマーケティングデータから、「お客さまからのご指摘」という形で、お客さまのニーズについての情報が入ったとします。そのとき複数の選択肢がある解決策の中で、森永乳業としていちばんよい方法を選ぶためにどうするか。そのために、環境の問題も考慮しながら、各部署に働きかけて要望を聞きだし、調整しながら改善をはかっていますと努力を重ねています。

磯村●お客さま相談室では常に「会話力のアップ」が今後の目標です。お客さまからの商品についてのご指摘やご意見、ご不満は同時に、会社にとって、必要不可欠な情報収集の場でもあ

ります。ただ苦情をうかがって終わるのではなく、情報としてくみ取るための部員の会話力や能力のアップをはかっていきたいです。その情報を社内にフィードバックすること、社内各部署からの商品情報を、正しくお客さまにお伝えすることなどが、森永乳業製品の良質さを理解していただく上で大切なことだと考えています。

網田●品質保証部としての課題は、情報が迅速かつ確実に届くコミュニケーションの改善と環境を維持していくことと考えています。そしてお客さまへの素早い対応のために、部内で情報などを共有できるよう、工夫していきたいです。

永安●それは人財部も同じです。制度などの周知徹底のアプローチが課題です。いかにして周知し、啓発していくのかを懸念中です。また今後は「従業員満足度調査」なども実行し、社員の皆さんが何を考え、何を求めているかの把握にも努めていきたいと考えています。

伊藤●大切なのは情報の取捨選択を的確におこない、情報のフローを円滑にすることです。そこで情報が自然に入るシステムができないう思案しています。また、情報を今後外に出していくため、アピールする表現・形式にも配慮していきたい。たとえば今年「年次報告」と名前を変えた事業報告書についても、株主総会で2年前から使いはじめた映像についても、さらに見直し、効果的に活用していきたいと考えています。また、やがて迎える百周年のために、社史の編纂をはじめ、森永乳業の多面的な記録を残す取り組みも検討中です。

栗原●アプローチというには非常に抽象的な表現ですが、数の

増加、内容の質的な向上など、PR、IRについての具体的な目標を立て、今まで以上に計画的に取り組んでいくことが課題です。現在3か年計画で、全社をあげての課題設定と達成目標に取り組んでいますが、PRに関してなら、PRの一般紙の掲載回数やニュースリリースの発信件数、IRでは決算説明会の出席者数や最終的な株価などというように、できるだけ数量化し、可視的な目標を立てて取り組んでいます。内容についても、決算説明会における説明資料の充実など、より具体的な目標を立て、それを着実に実行することが重要だと考えています。

濱邊●調達部の使命として、コストダウンが第一にあります。そのため、コストダウン金額が大きいものに優先的に取り組み、環境関連のテーマは付随的事項となりがちです。今後は、環境面での評価や配慮を、取り組みの優先順位の中に盛り込んでいくアプローチも必要だと考えています。

環境にやさしく、すべてのステークホルダー と協同する企業であるために

矢崎●先ほどステークホルダーは業界団体、さらにその先にいる消費者としましたが、紙パックのリサイクルを消費者に対していかに効率的に啓発していくかなど、啓発活動の仕組みづくりが課題です。業界団体は一方ではコンペティターであり、戦いながら協力をしていくことは非常に難しい側面もあります。その点を上手に協同し、効率的に実現していきたい。また工場での環境保全、コスト削減なども社内だけでは解決できませんので、専門企業とのコラボレーションが必要です。排水処理技術を有する関係会社のみならず、高度な技術を有する専門企業と連携して、より取り組みを進めていき、森永乳業が環境先進企業であることをアピールしていきたい。このような仕組みを勘案しつつ課題を解決していきたいと考えています。

山本●本日は皆さまから、いろいろな意見を出していただきました。全体を通し印象に残ったのが、コミュニケーションの重要性です。お客さまからの情報を正確に把握する能力や、磯村さ

安全、安心おいしさを追求する、社会とともにある企業であるために 森永乳業が大切にしていること



んのご発言のような会話力のアップなど、ハードにばかり頼るのではなく、基本的なコミュニケーションが、企業活動を円滑に動かし、よりよい製品づくりに結実していくということを再認識できました。どうもありがとうございました。



栗原繁雄
広報IR部
マスコミ対応と機関投資家(IR)、リスク時の対応を担当。



伊藤 充
総務部 総務課
総務部で文書管理と株式を担当。6月開催の株主総会が大きい。



磯村奈生子
お客さまサービス部
電話などによるお客さま対応や、工場見学などを担当。



永安紀人
人財部 人財課
人財部で、企画担当として人事制度の改定や福利厚生制度も担当。



中井 徹生
食品総合研究所
容器包装開発部
工場適性から物流強度、お客さまの使い勝手考えたパッケージの開発・改良を担当。



濱邊 学史
調達部
原材料の調達業務、中でも包装材料の調達の主に担当している。



網田 幸恵
品質保証部
お客さまに提出する品質規格書や検査報告書の作成など、また品質監査、風味パネルマスター育成の事務局を担当。



矢崎 雅俊
生産部 環境対策室
環境対策室長として、「社会・環境報告書」制作のまとめ役および環境保全施策の企画・立案などを主に担当。

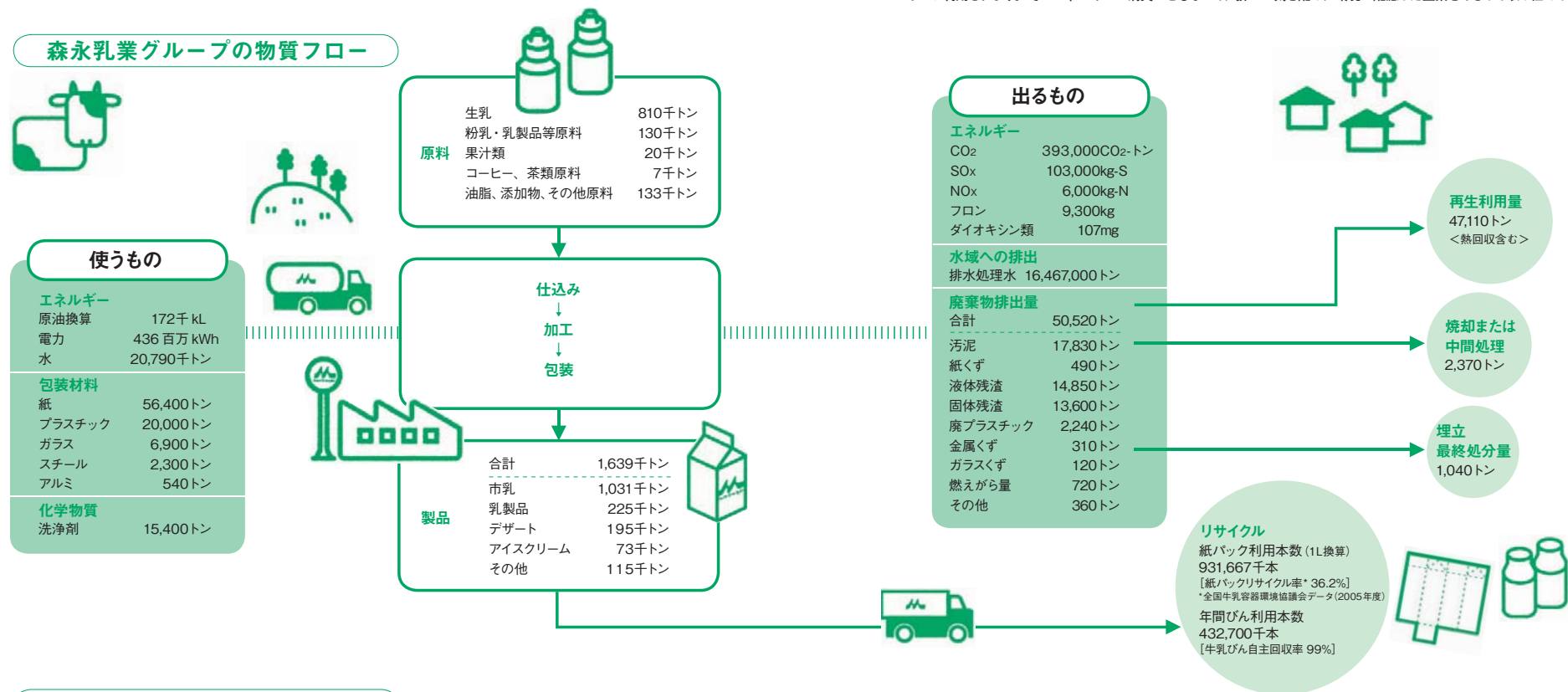


石川 茂光
生産部 環境対策室
ISO14001など環境マネジメントシステムの事務局を主に担当。



山本 美穂子
生産部 環境対策室
「社会・環境報告書」の制作と派生する諸分野を総括して担当。

製品づくりと環境の関わり



森永乳業では年間に1,639千トンの製品がつくられています。そのもとになる大量の原料を製品にするために、原料の輸送や製造工程、製品物流などの過程で、たくさんのエネルギーが利用されます。そのエネルギーの消費にともなって、排

気や排水、廃棄物などが生じています。森永乳業ではそれらのエネルギー消費や排出物を少しでも減量できるように、製造工程での設備やその運転管理などに気を配り、環境に配慮した企業をめざして取り組んでいます。

森永乳業の環境の取り組み

環境マネジメント

森永乳業では、環境問題に全社をあげて取り組めるよう、環境マネジメント体制を構築しています。環境保全のための目標を設定し、目標達成に取り組むシステムは社長を最高責任者に、担当役員を環境管理責任者にしています。森永乳業のグループ会社も参加した組織づくりをめざしています。

省エネルギー

製品をつくるためには、原油換算にして172千kL、電力では436百万kWh、そして20,790千トンの用水が使われています。コージェネレーションシステムを利用した省エネルギーへの取り組みによって、使用エネルギーを最低限に抑える努力をおこなっています。

用水・排水

工場で使用された水をきれいにして公共水域に戻しています。森永乳業のグループ会社が開発した設備を用いて、自然を害することがないように徹底した排水処理に努めています。また排水を工場内で再利用するなど、さまざまな取り組みをおこなっています。

大気

工場から出るSO_x、NO_x、フロンなどの化学物質排出の減少に取り組んでいます。また輸送の過程で発生する排気ガスなどにも配慮し、化石燃料を使用するトラックなどの輸送を減らし、船や列車を利用する輸送方法に変えるモーダルシフト化にも取り組んで、大気への配慮をおこなっています。

廃棄物

森永乳業では、排出されるゴミに近づける「ゼロエミッション」に取り組んでいます。工場から排出した廃棄物は年間50,520トン。その廃棄物を再資源化するよう取り組んでいます。年々この取り組みは効果を奏し、埋立最終処分量を減少させています。

3R

環境問題のキーワードとなる3つのR、リデュース(Reduce 発生抑制)、リユース(Reuse 再利用)、リサイクル(Recycle 再資源化)。森永乳業では3Rに取り組んでいます。循環型社会形成に向けて発生の抑制はもちろんのこと、廃棄物の再資源化に積極的に取り組んでいます。

環境を守るための取り組み

森永乳業では、環境問題に対する企業としての社会的責任を認識し、積極的に環境保全に取り組み、環境負荷の少ない企業活動を推進するための努力をおこなっています。

全社的な取り組みは、環境マネジメント体制を整え、1993年に制定した「環境保全業務要項」を行動規範としておこなっています。適切な環境保全への取り組みができています。また、内部環境監査もおこなっているが、確認しています。

環境マネジメント体制

環境マネジメント体制は、社長を最高責任者に、担当役員を環境管理統括責任者に据えて構成されています。

議長である担当役員のもと、本社関係部長と関係研究所長の委員からなる「環境会議」。ここでは環境対策の総合的な方針を決定し、目標設定とその達成状況について社長に報告する役割を果たしています。

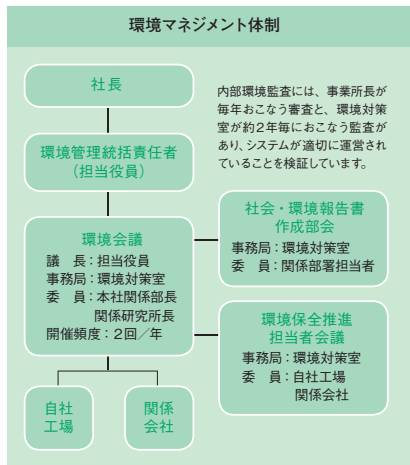
また工場などの各事業所やグループ企業では環境方針や環境マネジメントシステムを推進する「環境保全委員会」、環境会議の下部組織として社会・環境報告書を作成する「社会・環境報告書作成部会」など、業務の効率化も考えながら、環境保全に配慮しています。

環境マネジメントシステム

森永乳業では1999年の松本工場での取得を第一号に自社工場およびグループ関係会社でのISO14001の認証取得を進めてまいりました。2005年度時点で、自社工場全工場と関係会社3社での取得を達成しています。今後は、2006年5月より稼働開始した新工場・神戸工場でも認証を取得するよう取り組みを続けていきます。

また2006年3月に本社・研究所での認証取得が終了。これを受け、グループ全体の環境マネジメントシステムの統合をめざし2006年11月より事業所間の内部審査も開始しました。他事業所での取り組みを知ることで情報の共有化がはかられ、今後の環境への取り組みにプラスになると考えています。

グループ会社では環境省策定の「エコアクション21」の認証取得を進めています。その第一号として2006年に森永北陸乳業(株)の福井工場・富山工場が取得しました。他のグループ各社も認証取得作業を進め、森永乳業はグループ全体での環境への取り組みに、努力しています。



松本工場	●利根工場	富士工場
●装置開発研究所	●筑波医薬品工場	福島工場
●東京多摩工場	●近畿工場	佐呂間工場
●大和工場	●西日本市乳センター	盛岡工場
●村山工場	●関西酪農事業所	清水乳業
●東日本市乳センター	中京工場	郡山工場
横浜乳業	東京工場	●本社
エムケーチーズ	札幌工場	●研究情報センター
徳島工場	別海工場	富士乳業
●多摩サイト	●利根サイト	●近畿サイト
●本社・研究情報センターとして一括取得		

環境保全に対する基本方針

森永乳業は、環境負荷の少ない企業活動を推進するために、次の4つを基本方針として環境保全に取り組んでいます。

- ①環境負荷物質の排出、その他環境への悪影響を、製品の設計、原料資材の選定および調達、ならびに製品の生産から廃棄に至るまでの各段階を通じ可能な限り減少させる。
- ②製品の生産、流通、消費、廃棄の各段階において投入する資源およびエネルギーの節約をはかる。
- ③廃棄物発生抑制・再資源化および適正処理に努める。
- ④環境保全に係る技術を開発し、この提供を通じて社会的な環境保全に貢献する。

環境対策中長期目標 (2004年度~2006年度)

地球環境保全の重要性を認識し、循環型社会の実現に向けて環境保全活動をおこなう。

1. 工場廃棄物削減と再資源化率向上を推進する。廃棄物発生量を2006年度末までに2003年度実績の3%を削減する。廃棄物再資源化率を2006年度末までに2003年度実績から3ポイント向上させる。
2. 温暖化対策としてエネルギー原単位を年率1%減少する。
3. ISO14001 認証を2004年度末までに本工場全てで取得する。
4. 製品・容器開発も含めた環境関連の新技术開発を進める。
5. 環境報告書を継続的に作成し活動の確認と取り組み意識の高揚に努める。

2006年度目標および実績

廃棄物発生量、再資源化率、廃棄物最終処分量、エネルギー原単位について、中長期の目標を設定し、その達成状況を実績データをもとに検証し、環境保全活動をおこなっています。

項目	目標と結果 (2006年度)	達成状況
廃棄物発生量	2003年度 86,200トンより3%削減 → 84,650トン 03年度比 98% 2%削減	目標未達成
廃棄物再資源化率	2003年度 75%より3ポイント向上 → 88% 13ポイントアップ	目標達成
最終処分量	2003年度 2,360トンより3%削減 → 1,040トン 03年度比 44% 56%削減	目標達成
エネルギー原単位	2003年度 72原油L / 製品 kL・トン を3%改善 → 71原油L / 製品 kL・トン 03年度比 1%削減	目標未達成

- 廃棄物削減・再資源化
- ◆グループ全体の廃棄物発生量は84,650トンで、前年より5,640トン増加しました。2003年度比98%で目標を達成できませんでした。
 - ◆再資源化率は88%と2003年度より13ポイントアップで目標を達成しました。
 - ◆最終処分量は2003年度比44%で目標を達成しました。
 - ◆廃棄物削減・再資源化については2006年度はすべての項目で目標を達成しました。
 - ◆再資源化率90%以上を達成した工場が2005年度18事業所から2006年度19事業所に増加しました。(35ページに関連記事)

- エネルギー原単位
- ◆エネルギー原単位は、工場で使用した燃料と電力を原油量に換算した値を生産量で除して算出しています。
 - ◆原油量への換算は、経団連環境自主行動計画フォローアップの計算方法で算出しています。
 - ◆生産量は、液体製品はkL、固体製品はトンの値を合計して算出しています。
 - ◆エネルギー原単位は、2003年度比で1%減少しましたが、2003年度比3%削減する目標は達成できませんでした。



[Topics 03]

グリーン購入

グリーン購入とは物を購入する際、それが本当に必要な物なのかどうか検討し、購入する際は環境に配慮した商品を選択するというライフスタイルです。森永乳業でもオフィスに必要な文房具などでグリーン購入に取り組んでいます。

森永乳業のグリーン購入基準は、文房具などは必要性を十分に考えなくても購入しない。まずは、リユース、リサイクル品を検討する。商品選定にあたっては、価格や品質、利便性、デザインだけでなく、環境への負荷が小さいものを優先的に選択し、購入する。環境への負荷が小さい商品の目安として、エコマーク商品、グリーンマーク商品、牛乳パック再利用品、グリーン購入法適合品、非木材紙普及協会選定品の5つを参考にし、などです。

2006年度のグリーン購入実績は59%で、2005年度比で4ポイントダウンという残念な結果になりましたが、個別に見ると事務用品やノート、筆記用具など文具類では73%とグリーン購入の取り組みが進んでいます。文具類以外の分野でもグリーン購入が進むよう取り組みが今後の課題です。

森永乳業(株)はグリーン購入ネットワークの会員です。



エネルギーと用水使用状況

森永乳業では、原料の生乳の冷却や工場の製造工程で多くのエネルギーを使用しています。省エネルギーに積極的に取り組むとともに、生産量に対して1年間のエネルギーの使用量や排出量の割合が小さくなるよう、原単位の縮小のための努力も重ねています。

2006年度のエネルギー使用状況は

電力と燃料

電力購入量は2003年より4年間は減少しています。この間コージェネレーションシステムの導入も相次ぎ自家発電率は順調に上昇を続け2006年度はおよそ40%に達しています。

燃料使用量は生産量の増加と同調して微増しています。

エネルギー原単位、CO₂排出原単位

2006年度は、生産量の増加によりエネルギー原単位、CO₂排出原単位ともに減少しており、1998年を基準とした場合、緩

やかな横ばいから減少傾向をみせています。省エネルギー活動の効果と生産効率の上昇により有効にエネルギーを利用していることがうかがえます。

燃料の都市ガス化

森永乳業では省エネルギー対策に加え、環境への影響を考慮し、重油よりもクリーンな都市ガスへと燃料転換に取り組んできました。2006年はガス化率が67.4%を達成し、これは乳業界においてトップクラスの燃料転換率を誇っています。

用水量と用水原単位

森永乳業では2006年度製造量が増加したことともない用水量も増加しています。しかし2003年度からの傾向としては微減傾向にあります。

また用水原単位においても全体に微減傾向にあり、用水使用の効率化が進んでいることがうかがえます。

原単位 = $\frac{1年間の使用量・排出量}{1年間の生産量(kL・トン)}$

原単位は1年間の使用量または排出量を生産量で除したものです。分母の生産量は、牛乳などを生産する市乳工場と粉乳などを生産する乳製品工場と各原単位が大きく異なることから、乳製品工場の生産量には一定数値を乗じた数値を使用しております。

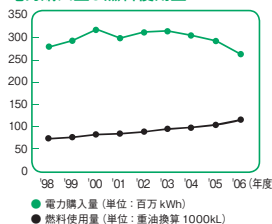
SO_x、NO_x 排出量

多い
C 重油
A 重油
少ない
ガス

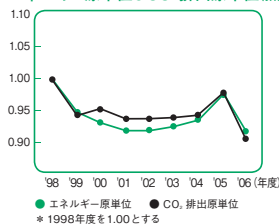
'95年に廃止
A 重油に
チェンジ

ガスが
いちばん
やさしい

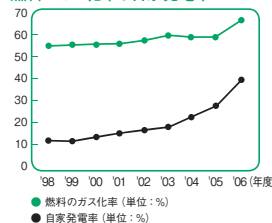
電力購入量 & 燃料使用量



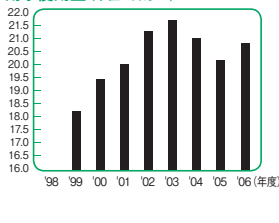
エネルギー原単位 & CO₂ 排出原単位 (指数)



燃料のガス化率 & 自家発電率



用水量 (単位: 百万 m³)



排水をきれいにするために

森永乳業は、水質保全にも真剣に取り組み、節水で水資源の無駄づかいを減らし、環境指標の基準を守るため、廃棄物置き場や燃料貯蔵所などから地下水への浸透や汚染が生じないように管理しています。また、排水処理技術の開発、改良をおこない、工場で使用した水をきれいにして、再び自然に返すよう、努力をしています。

排水処理への努力

節水で水資源を守る

工場全体で2006年度に使用した用水は20,790万トン、排水処理設備から排出した処理水は16,467万トンでした。前年度に比べ用水量、排水量ともに増加しています。これは生産量の増加にともなうものと考えられます。

中京工場において実施したウォーター・ピンチ・テクノロジーを他工場に展開した用水節減活動や、神戸工場における中水道の使用など、節水の努力を続けています。

森永乳業の排水処理の技術は…

森永エンジニアリング(株)では、森永乳業グループの工場はもちろん、全国のさまざまな食品製造工場や、その原料をつくる農産・水産・畜産加工場などからの排水をきれいにするため、排水処理施設的设计・建設や、運転管理の指導・維持管理などを、お手伝いしています。

排水の処理法は、自然界の微生物に排水の汚れ成分を食べさせる、活性汚泥法が中心ですが、余剰汚泥の発生が少なく管理の手間が殆どいらぬM.O. ラグーン・システム(森永グループで独自開発)から、厳しい水質規制に対応した高度処理システムまで、広く手掛けています。成分や濃度、立地条件などさまざまな工場にふさわしい方法に配慮した設備を

納入し、それぞれのお客さまにマッチした方法で維持管理ができるよう技術指導をしています。

1970年以降、いままでに納入した排水処理設備の数は1300か所以上あり、食品工場の排水処理分野でトップクラスの実績数です。たとえば2006年度新たに全国の食品会社に納入した排水処理設備の規模の合計は、その処理水量と汚れを浄化できる濃度から、40万人分の下水の汚れを浄化する量に相当します。

このように、全国各地に設置された、各工場の処理設備が日々動かされることによって、日本の水環境は、よりよいものとなっていくと考えています。

「やさしい殺菌」ピュアスター

森永乳業の水質管理のための技術開発は、排水だけでなく、殺菌水の製造でも活用されています。それは森永乳業グループが開発した微酸性電解水製造装置・ピュアスターでつくられる「微酸性」のやさしい殺菌水です。とても高い殺菌力を持つ次亜塩素酸を多く含んでいるので、10~30ppmという従来の殺菌剤より低い塩素濃度で殺菌効果を発揮できます。臭いや残留性が少なく、すすぎ水の大幅削減など、環境への負荷が低減でき、人にも地球にも「やさしい」新しい殺菌水です。最近、化粧品など直接肌に触れる製品でも数多く発売されていますが、「微酸性」は、通常、微酸性の状態にある人間の肌に「やさしい」のです。

このピュアスター水は、2002年6月に食品添加物として認められた安全な殺菌水で、食品工場をはじめ、福祉介護・農業・水産業など広い分野で採用されています。



排水処理設備



ピュアスター



2006年度の省エネルギー、自然エネルギーの活用

森永乳業では、省エネルギーについて、目標を設定し、事業所別にさまざまな努力をおこなっています。また省エネルギー設備の導入や技術の開発・改良をおこない、自然エネルギーの活用にも積極的に取り組んでいます。

コージェネレーション

Wのエネルギーを活用

森永乳業の工場ではコージェネレーションシステム (CGS)を導入しています。CGSは、燃料エネルギーを使って、エンジンを運転し発電させると同時に、エンジンからの廃熱を利用して蒸気をつくります。電気と熱のWのエネルギーを有効活用する省エネルギーシステムです。

また、製品の冷却のために終日運転する冷凍機を、蒸気を熱源とする吸収式冷凍機に置き換えることなどで、CGSで発生する熱エネルギーを終日有効利用しています。その他、工場ですらった電力は外部に売却するなど、エネルギーの有効利用にも一役買っています。

氷蓄熱

森永乳業グループでは氷蓄熱設備であるアイスバンクを設置しています。

利用者が少ない夜間電力で水槽に氷をつくり、昼の製造時に蓄えた氷を溶解した冷却水を利用します。このため1日の電力使用がピークを迎える日中には冷却用の電気使用量を抑えることができます。アイスバンクは1日24時間の中で無駄なく賢く電力を利用するための知恵といえます。

現在、森永乳業グループが所有するアイスバンクの総容積は4,500m³、蓄水量は1,400トンになります。日中の電力負荷

がピークとなる時間帯に3時間で氷がとけると仮定すると、この蓄水量は電力で駆動する冷凍機の約14,500kW容量分に相当します。

自然エネルギーの活用

太陽光、風力、水力、グリーン電力購入

森永乳業ではさまざまな環境活動のひとつとして自然エネルギーの利用に取り組んでいます。

自然エネルギーは石油や石炭、天然ガスなど従来の化石燃料ではなくて太陽光や風力、水力、バイオマスなど再生可能な資源を利用して生みだされます。そのためCO₂排出の削減に貢献でき、地球温暖化防止対策のひとつとして非常に注目が集まっています。

太陽光発電

東京多摩工場のリサイクルセンター屋上には太陽光発電装置が設置されています。これはNEDO[®]のフィールドテストとして2003年2月から運用が開始されているもので、1年間で約40,000kWhの発電が見込まれています。これにより約22トンのCO₂削減に貢献しています。

*NEDO：新エネルギー・産業技術総合開発機構
(Web サイト <http://www.nedo.go.jp/>)



太陽光発電



ハイブリッド小型風力発電

ハイブリッド小型風力発電

研究情報センターと神戸工場にはハイブリッド小型風力発電装置が設置されています。風力発電はプロペラ型のものがありますが、森永乳業では丈夫さやメンテナンス性に優れている、写真のようなジャイロミル型と呼ばれるタイプの装置を採用しています。

またこの装置には小型の太陽光発電パネルもセットされており、晴れた日は太陽光で発電することも可能です。このように2種類以上の組み合わせで発電する装置をハイブリッド型と呼び、自然の力を効率よく利用できるよう工夫されています。

研究情報センターと神戸工場それぞれで年間約100/300kWhの発電が見込まれており、両者を合わせて約200kgのCO₂を削減することができます。

小型水力発電

神戸工場では使用した水は排水処理設備できれいにしてから瀬戸内海に放流しています。そのまま流してしまうだけではもったいないので、その一部を使って水力発電を実施しています。この装置では840kWhの発電が見込まれており、これ



小型水力発電

により約470kgのCO₂を削減することができます。また、きれいに処理された排水はこのような発電の他、工場の緑地に散水したり、トイレの流し水としても再利用されています。

グリーン電力購入

グリーン電力とは再生可能な自然エネルギーを利用して発電した電力のことで、風力や太陽光、水力などが有名ですが、バイオマスを利用した発電も盛んにおこなわれるようになりました。

森永乳業では神戸工場において酪農家の家畜糞尿を利用したメタンガスは酵発電の電力を購入しています。これにより酪農家の活動を支援するとともに自然エネルギーの推進に協力しています。1年間に50万kWhを購入しており、これは約280トンのCO₂削減に相当します。

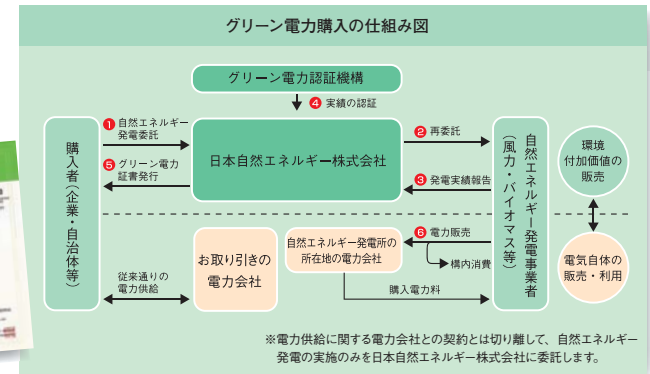
グリーン電力購入の仕組みは次のとおりです。グリーン電力購入希望者は「日本自然エネルギー株式会社」を仲介者として購入したい電力量を発電するよう複数の発電所に委託します。森永乳業の場合は酪農家の発電設備に委託しています。酪農家で発電された電力はそのまま牧場で利用されたり、地元の電力会社が購入して酪農家の近隣で利用するよう工夫されており、森永乳業が直接利用できるものではありません。

グリーン電力購入者は仲介者である「日本自然エネルギー株式会社」より契約量が発電されたことを証明する「グリーン電力証書」を発行してもらいます。つまりグリーン電力購入とは自然エネルギーの利用を推進している環境価値を購入することで、将来的にはこのグリーン電力購入分が実質的なCO₂削減分として認められるといわれています。

以上のような自然エネルギー活用への取り組みの他にも、今後もさまざまな活動を実施し、省エネルギーの努力を続けます。

アイスバンク活用実績				
	05年度	06年度		
総容量 (m ³)	4,000	4,500		
蓄水量 (t)	1,350	1,400		

東京多摩工場 太陽光発電／発電量実績 (単位: kWh)				
	03年度	04年度	05年度	06年度
	37,182	40,939	34,157	34,639
	8軒分	9軒分	8軒分	8軒分
	平均的な4人家族の消費電力 4,482kWh として			



環境への負荷を減らすために

大気環境保全は森永乳業にとって重要な課題です。

重油や石炭など、硫黄分が含まれる化石燃料が燃焼するときに発生するSOx(硫黄酸化物)、工場のボイラーなどの、高温燃焼の際に発生するNOx(窒素酸化物)について、環境指標を設定し、それを達成するよう努力しています。

また、2005年度の省エネ法の改正を受けて、物流でのCO₂排出量を削減するため、モーダルシフトを進めるなど、さまざまな対策に取り組んでいます。

化学物質排出状況は？

酸性雨やオゾン層の破壊、大気汚染などの原因となる化学物質。その原因物質を排除するためには、工場での排出削減や適正処理などの対策が必要です。

まずオゾン層破壊物質の排出について見てみましょう。

森永乳業では、冷凍・冷蔵庫の冷媒に、フロン的一种であるハイドロクロロフルオロカーボン(HCFC22)を使用しています。この物質の大気中への排出の抑制や回収に努め、排出量も前年より1%減を達成しています。また、使用する冷凍機などをフロン使用タイプからアンモニア冷媒使用の冷凍機へ変更することで脱フロン化を進めています。

ダイオキシンについては、廃棄物処理法およびダイオキシン類対策特別措置法にもとづいて、廃棄物焼却炉の管理をおこなっています。ダイオキシン類の発生を大幅に抑制できる

オゾン層破壊物質排出量(単位:kg)					
排出物	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
HCFC22	11,300	10,900	15,600	9,400	9,300

HCFC22(ハイドロクロロフルオロカーボン)オゾン層破壊係数(ODP):0.055
 ODP(Ozone-Depleting Potential:オゾン破壊係数)とは、大気中に放出された単位重量の物質がオゾン層に与える破壊効果。CFC-11の破壊効果を1とするときHCFC22の破壊効果は相対値として0.055となる。

前年比 **99%**

ダイオキシン類の排出量(単位:mg/年)					
排出量	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
大気	370	185	199	100	↘ 50
公共用水域	0.2	0.0008	0.0002	0	↗ 0.6
事業所外への移動	42	9	35	15	↗ 56

流動式焼却炉の使用などにより、総量で前年比93%でした。

また1972年から国内での製造、使用が禁止になっているPCB(ポリ塩化ビフェニル)については、2015年までにその廃棄物をすべて処分することが法律で定められており、処理を進めています。

光化学スモッグや酸性雨の原因となるSOx、NOxについては、工場で使用する燃料を都市ガスやLPGへ転換させて排出量削減に取り組んでいます。しかし、2006年度は重油を使用するコージェネレーションシステムの増設と稼働などにより、SOx、NOxともに増加という結果になりました。

大気汚染物質排出状況(単位:kg-S、kg-N)					
排出量	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
SOx	110,000	114,200	105,100	99,500	103,000
NOx	5,700	6,100	6,700	5,100	6,000

前年比 **SOx 104%** 前年比 **NOx 118%**

PCB廃棄物(ポリ塩化ビフェニル)	
高压コンデンサー	153
低压コンデンサー	10
安定器	437
変圧器	1

[Topics 04]



紙パック回収運動

森永乳業グループでは2006年11月より1年間の予定で全従業員に対して紙パック回収運動への協力を呼びかけています。2010年の回収率50%という目標達成をめざしてがんばっています。

森永乳業の荷主責任について ～物流での対応～

荷主としての取り組み、今後の取り組み

森永乳業の2006年度の輸送トン・キロは、7億1260万トン・キロ。これは2005年4月より施行された改正省エネルギー法による輸送トン・キロで、3000万を超える「特定荷主」に分類されます。

そのため物流でのCO₂排出量を削減するため、さまざまな対策に取り組んでいます。

「京都議定書」で国として約束したCO₂排出量の削減に向けて、経済産業省管轄の運輸部門では2008年から2012年の5年間の約束期間に1995年と同程度のCO₂排出量に抑制することを目標としています。当社としても自ら物流事業者として、また、荷主企業として物流事業者と協同し環境負荷低減と物流効率化に取り組んでいます。

具体的には北海道の濃縮乳を首都圏に運ぶのに、トラックからCO₂排出量のより少ない海上コンテナ船やJRコンテナによる鉄道に切り替えるモーダルシフト、あるいは、配送コースを工夫して配送車輛を削減したり、車輛の大型化、他社と



鉄道による運送

1トンの貨物を1km運ぶ場合のCO₂排出量は鉄道では自動車の8分の1です。また鉄道はトラックなどに比べ大量の荷物を運ぶことができ、船舶などより天候に影響されることが少ない運輸方法です。

船舶による運送

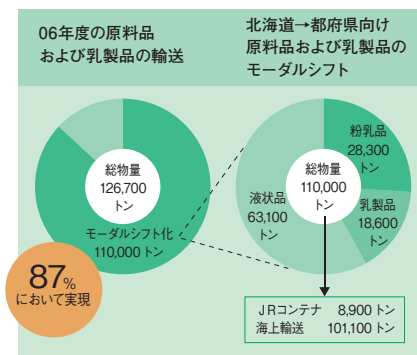
船による運送の利点は、トラックなどに比べ、一度に大量の荷物を扱えることです。また、1トンの貨物を1km運ぶ場合のCO₂排出量は、船では自動車の4分の1といわれています。

自動車による運送

いつでも輸送でき、早いという利点がありますが、CO₂排出量が多く、環境にはうれしくない運輸方法です。そこで急ぐ必要のない貨物は船や鉄道に振り替えるという方法が推奨されています。

の共同配送の推進や大型トラックの積載率を向上させるなど、物流全般の合理化を推進し、結果としてCO₂の排出量を抑制することにつながるよう努力しています。

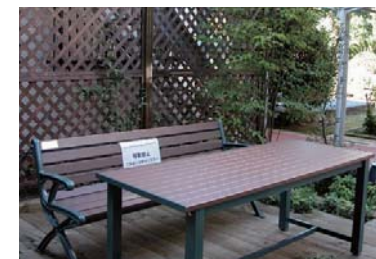
さらに、今後は荷主企業として、物流事業者と協働で配送トラックの燃費向上に向けての運行指導・管理の徹底なども進め、CO₂総排出量の削減に努めるよう計画しています。



[Topics 05]

紙パックパルプを再資源化したエコベンチとテーブル

文具メーカーのコクヨ(株)様に工場で回収された紙パックを提供してエコベンチの制作をお手伝いしました。まだ試作段階のことですが、とても立派なベンチに生まれ変わりました。このベンチには牛乳などの飲料容器である1Lの紙パックが、およそ300枚分使用されています。



発生の抑制と再資源化率の向上、減量

森永乳業では、排出される廃棄物をゼロに近づける“ゼロエミッション”を推進しています。各事業所では環境保全業務要綱にもつじた基本方針を作成しています。この方針に沿って、年間の計画や目標を設定し、さまざまな課題に取り組んでいます。

結果、2006年度の廃棄物は新工場の稼働で発生量は前年度よりもやや増加したものの、再資源化率はさらに向上。最終処分量では減量を達成しました。また、このような取り組みを推進した結果、郡山工場が福島県のコンクールで優秀賞を受賞するという成果につながりました。

森永乳業の廃棄物

廃棄物の種類や発生量は…

森永乳業で発生する廃棄物の種類は、排水処理設備から発生する汚泥、抽出工程などから出るコーヒークず、茶かすなどの固体残渣、生産余剰品やテスト製造時の残量などの液体残渣、廃プラスチック、金属くず、ガラスくず、紙くず、燃え殻などがあります。

廃棄物種類別の発生量割合では、汚泥が最も多く31%、ついで液体残渣が28%、固体残渣が21%と発生量の上位には変化がありませんでした。

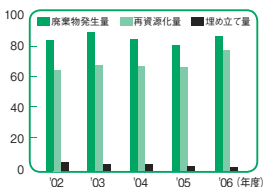
廃棄物発生量については、2006年度の目標を83,620トンとしていましたが、実際の数値は、84,650トンと残念ながら目標を達成することはできませんでした。これは神戸工場が稼働を開始し、資源の投入量が増加したためと考えられます。単純な廃棄物発生量ベースでは前年比101%と増加していますが、再資源化率が向上したことにより、最終処分量を減量することができました。

再資源化率と最終処分量

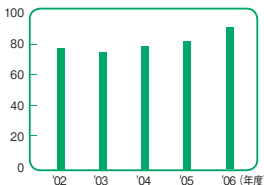
2006年度の再資源化率目標は78%でしたが、さまざまな取り組みの結果88.4%を達成しました。これは、2004年度の78%を10ポイント、2005年度の81.4%を7ポイント上回りました。ゼロエミッションのための努力が効果をあげていることがわかりいただけるでしょう。

再資源化率の目標値を達成したおかげで、発生量が増えているにもかかわらず、最終処分量は前年度1,430トンより約400トンの減量に成功し、1,040トンという結果でした。

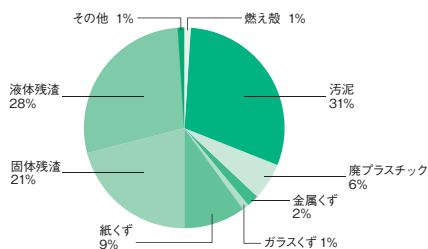
廃棄物発生量・再資源化量・埋め立て量 (単位：千トン)



再資源化率 (単位：%)



種類別発生量の割合 (単位：%)



種類別廃棄物発生量		合計 84,650トン	
汚泥	26,670トン	金属くず	1,680トン
液体残渣	23,520トン	燃え殻	760トン
固体残渣	18,010トン	ガラスくず	650トン
紙くず	8,010トン	その他	510トン
廃プラスチック	4,840トン		

事業所ごとの取り組み

3年連続 90%以上の再資源化率を達成!

事業所別年度目標に取り組んだ成果も年々あがってきています。90%以上の再資源化率を達成した関連会社を含む19事業所のうち、3年連続で達成した事業所は札幌、利根、東京、東京多摩、大和、松本、富士、徳島、宮酪乳業、清水乳業、北海道保証牛乳の11か所にのびりました。

郡山工場の取り組み

「福島県 ゼロエミッション活動提案コンクール」で最優秀賞受賞

郡山工場では、具体的な取り組みとして、①発生量削減、②再資源化、という二本柱で活動をおこなっています。

発生量の削減のために、廃棄物で最も大きな割合を占める排水汚泥について、事業活動にともなうトラブルやロスを解消する活動を通じて、極力牛乳分などを排水に流さないように徹底。また排水処理施設についても維持管理を強化して適性で効率的分解処理をおこなわせることで、発生する汚泥自体を削減。社内の電子化システムを活用し、電子共有化による徹底した会議運営や情報の取得方法のペーパーレス化を進め、紙廃棄物の削減と効率的な業務運営を実現しました。

また、再資源化のためには、原材料容器廃棄物(段ボール、ポリ容器、缶、紙ドラム缶)を、減容化、再資源化(一部リターナブル化)、不要化の3つの観点で徹底的に分析し削減しました。また、容器包装で使用するストレッチフィルム、ビニール類(廃棄紙バック容器)の減容化再資源化に成功。焼却していた廃棄資料記録書類は、シュレッダーを導入して再資源化。場内に廃棄物分別保管場を集積整備し、メンバーに

再資源化率 90%以上を達成した工場

佐呂間工場	松本工場	宮酪乳業(株)
札幌工場	富士工場	富士乳業(株)
利根工場	中京工場	清水乳業(株)
東京工場	神戸工場	熊本乳業(株)
東京多摩工場	徳島工場	北海道保証牛乳(株)
大和工場	東洋乳業(株)	フリーズポート熊本工場
村山工場		

●印は3年連続で再資源化率90%以上達成した工場



郡山工場は2007年1月30日に開催された福島県のゼロエミッション活動推進大会の席上で、活動内容を発表「福島県 ゼロエミッション活動提案コンクール」で最優秀賞を受賞しました。分別廃棄物の徹底をはかっていることが評価されて今回の最優秀賞受賞となりました。

よる分別・衛生状態の巡回チェックをおこなって、食品工場としての衛生的で作業性のよい分別保管を実現するなど、作業効率や作業環境の向上も考えた体制の中で取り組みました。

これらの他にも、郡山工場ではこれまでも廃棄物削減のPDCA活動が継続的に進むよう、毎年見直しを実施し分別廃棄物の徹底をはかっていること、また具体的手順をマニュアル化し、自分たちの排出ゴミを分別して量を記録し、実態を掌握し、月1回全体会議をもうけて活動の目標と実績を確認し合い、工場のトップも参加して対応を話し合うなど、効果的な取り組みが次々とおこなわれています。

これらの取り組みが評価されて今回の最優秀賞受賞へとつながりました。

【Topics 06】

ホームページにアクセス!

森永乳業のホームページでは森永のおいしい牛乳をはじめとした商品オリジナルサイトや、商品情報、CM情報、ヘルシーケイレイシビなどの情報がチェックできます。また、M's Kitchenのご案内や、製品で活用されている機能性素材「ラクトフェリン」についての紹介など、幅広い内容をご提供しています。さらに、文字拡大や音声での読み上げなどの閲覧支援ツールやサイト内検索など快適にご覧いただくための機能も充実させています。
http://www.morinagamilk.co.jp



よりよい製品づくりをめざして

森永乳業では、エコパッケージガイドを制定し、企画・開発段階から3R（リデュース、リユース、リサイクル）などの環境性能や安全性、使いやすさに配慮した製品づくりを進めています。

独自に、容器包装の開発や改良を重ねるだけでなく、お客様相談室によせられるご意見やご指摘を受けた点についても対応するよう取り組んでいます。

容器・包装の開発・改良への取り組み

軽量化の取り組み

宅配用の牛乳びんにおいては、従来びんの244gから130gへ軽量化しました。また、外表面に樹脂をコーティングすることにより、軽量化と耐久性の向上を同時に実現させ、再使用回数を従来の30回から60回に倍増させることに成功しました。日本パッケージングコンテストにおいては、ジャパンスター賞に賞し、最優秀パッケージに与えられる経済産業大臣賞を受賞しました。

リサイクル材の使用

また、環境に配慮し、原材料を有効利用した容器包装にも工夫をこらしています。たとえば、カフェラテ製品のオーバーキャップは、オーバーキャップ打ち抜き後のシート廃材を粉碎・溶融し、ふたたびシートに加工しています。これにより使用する樹脂の量を約40%削減することに成功しました。



お客様の声をいかして

また森永乳業では、お客様からいただいた貴重なご意見やご要望をもとに、使いやすい容器包装をめざし、日々改善に取り組んでいます。その一部をご紹介します。

カートカンのタブ形状変更

宅配用の飲料や流動食には、牛乳パックと同様にリサイクル可能な紙製の缶（カートカン）を採用しております。今まではタブの中央部が凹状で掴みにくく、またタブをはがす箇所がわかりにくかったものを、中央部を凸状にすることで掴みやすく、タブをはがす箇所をわかりやすくしました。

ピノのカルトンの省容量化

人気のアイスクリーム商品「ピノ」。商品を消費した後、廃棄時に簡単に折りたたむため、省容量化できるように、側面にミシン目を入れました。これにより、廃棄時の箱がコンパクトになりかさばりません。

スライスチーズのフィルム印刷

とろけるチーズを他のチーズと区別ができるように「とろけるスライス」とロゴを入れるとともに、印刷の色も朱色に変更しました（他のチーズはオレンジ色になっています）。これにより、商品が見やすく識別しやすくなりました。



森永乳業の取り組みを紹介

森永乳業ではこれらの環境に配慮した容器包装への取り組みについて、多くのお客様に紹介するため、2006年12月14日～16日に開催されたエコプロダクツ展に出展しました。出展ブースはグリーン購入ネットワークが主催する「食と環境」コーナーで、軽量びんの環境特性を発表する内容で展示を工夫しました。当日は小学生や中学生の来訪も多く、パネル紹介の他、パンフレットなどの配布もおこなわれました。



紙パックリサイクルへの取り組み

森永乳業は紙パックリサイクル率の向上をめざし、全国牛乳容器環境協議会のメンバーとしてさまざまな催しに協力しています。2006年度は、牛乳パックリサイクル促進地域会議*（京都府、千葉県、高知県で開催）や、紙パックリサイクル講習会*をおこなっています。



また、6月の環境月間と10月の3R推進月間におこなわれる「紙パック環境リサイクルキャンペーン」に森永乳業も参加。紙パックの回収率向上のためのリサイクルを呼びかける「環境メッセージ」を牛乳パッケージに掲載し活動に協力しました。詳しくは全国牛乳容器環境協議会のWebサイトで紹介しています。（<http://www.yokankyo.jp/>）

紙パックリサイクルにご協力をお願いいたします。

*ともに全国牛乳パックの再利用を考える連絡会との共催で実施

容器包装リサイクルの推進

森永乳業は次の協議会に加入し、事業者として3Rの推進に協力しています。容器包装リサイクル法の再商品化委託料金については環境会計（38ページ）に記載しております。

	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 http://www.pprc.gr.jp/
	紙製容器包装リサイクル推進協議会 http://www.kami-suisinkyo.org/
	PETボトルリサイクル推進協議会 http://www.petbottle-rec.gr.jp/

環境会計

環境経営を健全に推進するため、事業活動における環境保全活動を定量的に評価する環境会計を、1999年度から算定しています。2006年度は環境投資として2,344百万円、環境費用として4,749百万円の環境保全活動をおこない、その結果205百万円の経済効果がありません。

環境保全コスト

*対象期間：2006年4月1日～2007年3月31日（単位：千円）

項目		2006年度*		2005年度	
分類	主な取組の内容及びその効果	投資額	費用額	投資額	費用額
1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）		2,308,162	3,306,934	1,385,608	2,778,465
内 訳	公害防止コスト	983,425	1,122,072	730,297	1,065,505
	地球環境保全コスト	493,615	293,061	301,428	428,081
	資源循環コスト	831,122	1,891,801	353,883	1,284,879
2) 生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（上・下流コスト）	牛乳びんの回収コスト 容器包装リサイクル法による再商品化委託料金	0 0	569,146 597,302	356,500 0	736,506 544,409
3) 管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト）	ISO14001 認証取得、環境教育	275	84,260	250	93,029
4) 研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト）	容器包装の軽量化	11,555	4,423	11,432	33,458
5) 社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト）	緑化推進と緑地保全、工場周辺美化、河川・自然保護地区の清掃	24,898	115,527	11,401	107,841
6) 環境損傷に対応するコスト（環境損傷コスト）	公害健康補償法による汚染負荷量賦課金	0	71,727	0	75,949
合計		2,344,890	4,749,319	1,765,191	4,369,657

環境保全対策に伴う経済効果

*対象期間：2006年4月1日～2007年3月31日（単位：千円）

項目	2006年度*	2005年度
資源物リサイクルにより得られた収入額	64,283	41,569
省エネルギーによる費用削減	34,700	55,000
廃棄物処理費用の削減	67,832	83,973
物流削減による費用削減	28,000	22,500
用水利用の合理化	10,310	5,500
合計	205,125	208,542

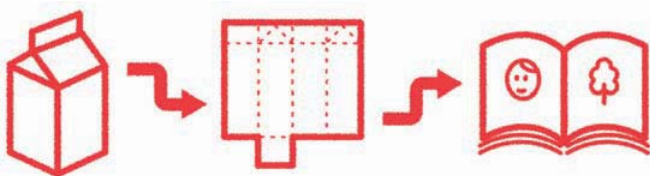
(注) 1. 環境省の「環境会計ガイドライン（2005年版）」に基づき自社基準を策定して、環境保全コストとその経済効果を公表しています。
2. 環境会計の集計範囲は、直系工場、研究所です。
3. 直接把握が困難な費用については、過去の実績、調査に基づいた比率で按分、配賦しました。

編集後記

森永乳業は2000年から「環境報告書」を発行し、2005年から経済的側面、社会的側面を加えた「社会・環境報告書」としての体裁を整えました。今後ともお客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまに信頼される企業をめざした取り組み内容を誠実に報告していきます。

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」との対応関係

基礎情報：BI	該当ページ	マネジメント・パフォーマンス指標：MPI	該当ページ
BI-1：経営責任者の緒言		MP-1：環境マネジメントの状況	26
環境経営の方針		MP-1-1：事業活動における環境配慮の方針	27
環境問題の現状、事業活動における環境配慮の取組の必要性及び持続可能な社会のあり方についての認識	2	MP-1-2：環境マネジメントシステムの状況	26
経営責任者等の署名	2	MP-2：環境に関する規制の遵守状況	32-33
BI-2：報告にあたっての基本的要件（対象組織・期間・分野）		MP-3：環境会計情報	
報告対象組織（過去に環境報告書を発行している場合、直近の報告書における報告対象組織からの変化や経緯等についても記載する。）	3	環境保全コスト 環境保全対策に伴う経済効果	38
報告対象期間、発行日及び次回発行予定（なお、過去に環境報告書を発行している場合は、直近の報告書の発行日も記載する。）	3	MP-4：環境に配慮した投資の状況	—
報告対象分野（環境的側面、社会的側面、経済的側面等）	3	MP-5：サプライチェーンマネジメント等の状況	—
準備あるいは参考にした環境報告書等に関する基準又はガイドライン等（業種毎のものを含む。）	3	MP-6：グリーン購入・調達状況	27
作成部署及び連絡先	3	MP-7：環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況	
ウェブサイトのURL	3	MP-8：環境に配慮した輸送に関する状況	
BI-2-2：報告対象組織の範囲と環境負荷の補正状況		MP-9：生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用状況	—
報告対象組織の環境負荷が事業全体（連結決算対象組織全体）の環境負荷に占める割合（「環境負荷の補正」等による状況）	—	MP-10：環境コミュニケーションの状況	18-19,37
BI-3：事業の概況（経営指標を含む）		MP-11：環境に関する社会貢献活動の状況	19
主たる事業の種類（業種・業態）	4-5	MP-12：環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	
主要な製品、サービスの内容（事業分野等）	4-7	容器包装リサイクル法、家電リサイクル法及び自動車リサイクル法等に基づく再商品化の状況	37-38
売上高又は生産額（連結決算対象組織全体及び報告事業者単独、報告対象組織）	4-5	オペレーション・パフォーマンス指標：OPI	該当ページ
従業員数（連結決算対象組織全体及び報告事業者単独、報告対象組織）	4-5	OP-1：総エネルギー投入量及びその低減対策	
その他の経営関連情報（総資産、売上総利益、営業利益、経常利益、純損益、付加価値額等）	4-5	総エネルギー投入量の低減対策に関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	27
報告対象期間中に発生した組織構造、株主構成、製品・サービスの重大な変化の状況（合併、分社化、子会社や事業部門の売却、新規事業分野への進出、工場等の建設等により環境負荷に大きな変化があった場合）	4-5,14	・購入電力（購入した新エネルギーを除く）	28
BI-4：環境報告の概要		・化石燃料（石油、天然ガス、LPG、石炭等）	28
BI-4-1：主要な指標等の一覧		・新エネルギー（再生可能エネルギー、リサイクルエネルギー、従来型エネルギーの新利用形態）	30-31
事業の概況（会社名、売上高、資本金）（過去5年程度、BI-3参照）	4-5	OP-2：総物質投入量及びその低減対策	
環境に関する規制の遵守状況（MP-2参照）	32-33	総物質投入量（又は主要な原材料等の購入量、容器包装材を含む）の低減対策及び再生可能資源や循環資源の有効利用に関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	36-37
主要な環境パフォーマンス等の推移（過去5年程度）	28-30,32,34-35	OP-3：水資源投入量及びその低減対策	
・総エネルギー投入量（OP-1参照）	24-25,28	水資源投入量の低減対策に関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	24
・総物質投入量（OP-2参照）	24-25	水資源投入量（m ³ ） 水資源投入量の内訳（m ³ ）	28-29
・水資源投入量（OP-3参照）	24-25,28-29	OP-4：事業エリア内で循環的利用を行っている物質等	—
・総製品生産量又は総商品販売量（OP-5参照）	24-25	OP-5：総生産品生産量又は総商品販売量	24
・温室効果ガスの排出量（OP-6参照）	24-25,28	OP-6：温室効果ガスの排出量及びその低減対策	
・化学物質の排出量、移動量（OP-8参照）	24-25,32	温室効果ガス（京都議定書6物質）の総排出量（国内・海外別の内訳）（トン・CO ₂ 換算）	25
・廃棄物等総排出量及び廃棄物最終処分量（OP-9参照）	24-25,34-35	OP-7：大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	
・総排水量（OP-10参照）	24-25	大気汚染防止法に基づく硫黄酸化物（SO _x ）排出量（トン）、窒素酸化物（NO _x ）排出量（トン）、揮発性有機化合物（VOC）排出量（トン）	32
BI-4-2：事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	27	OP-8：化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	
BI-5：事業活動のマテリアルバランス（インプット、内部循環、アウトプット）		化学物質の排出量、移動量の低減対策に関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	32
事業活動に伴う環境負荷の全体像	24-25	化学物質排出把握管理促進法に基づくPRTR制度の対象物質の排出量、移動量（トン）	32
社会パフォーマンス指標：SPI	該当ページ	OP-9：廃棄物総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	
労働安全衛生に関する情報・指標	15	廃棄物等の発生抑制、削減、リサイクル対策に関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	27,34-35
地域社会及び社会に対する貢献に関する情報・指標	18-19	廃棄物の総排出量（トン） 廃棄物最終処分量（トン）	25,34-35
企業統治（コーポレートガバナンス）企業倫理・コンプライアンス及び公正取引に関する情報・指標	10-11	OP-10：総排水量及びその低減対策	
広範な消費者保護及び製品安全に関する情報・指標	12-13	総排水量（m ³ ）	25,29
その他の社会的項目に関する情報・指標	16-19	環境効率指標：EEI	該当ページ
		事業によって創出される付加価値等の経済的価値と、事業に伴う環境負荷（影響）の関係	—



この社会・環境報告書は、紙パックをリサイクルした紙で作っています。

おいしいをデザインする 森永乳業株式会社

森永乳業株式会社
生産本部 生産部 環境対策室
〒108-8384 東京都港区芝 5-33-1
TEL 03-3798-0960 FAX 03-3798-0103
発行：2007年9月

この社会・環境報告書は、紙パックをリサイクルした紙や天然由来の原料を使用したインクなど、環境に配慮した製品でつくられています。

